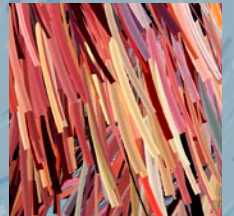
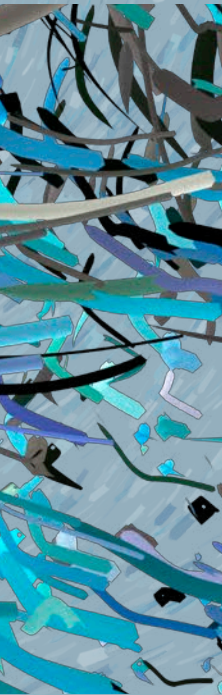


防衛白書



DEFENSE of JAPAN 2022

令和四年版

日本の防衛 別冊

防衛省

中国の軍民融合と軍事の「智能化」



極超音速滑空兵器の開発を推進

極超音速滑空兵器を搭載可能とされる弾道ミサイル【Avalon/時事通信フォト】

◆中国は、「世界一流の軍隊*」の建設を目指し、軍資源と民間資源を結合させる「軍民融合」と智能化(AIの活用など)を強化しています。

*中国は、「世界一流の軍隊」とは何を意味するか定義していませんが、米軍と同等か、場合によってはそれを上回る軍事力を開発しようとしている可能性が指摘されています。

無人機の開発・配備を推進



沖縄本島・宮古島間を飛行する中国の攻撃型無人機TB-001

▶中国国防費との比較(最近10年間)



中国は過去30年以上にわたり高い水準で国防費を増加させ、核・ミサイル戦力や海上・航空戦力を中心に、軍事力の質・量を急速に強化しており、強い懸念となっています。

海上戦力の能力向上



中国の国産空母「山東」【Avalon/時事通信フォト】

ロシアによるウクライナ侵略

◆力による一方的な現状変更は、アジアを含む国際秩序全体の根幹を揺るがす行為

2022年2月に発生したロシアによるウクライナ侵略は武力の行使を禁ずる国際法の深刻な違反であり、このような力による一方的な現状変更の影響が、インド太平洋地域にも及ぶことが懸念されます。



ウクライナ国内でのロシア軍の装甲車【SPUTNIK/時事通信フォト】

ロシアは、ウクライナ侵略の際、武力行使に加え、インターネット網へのサイバー攻撃や偽情報を流布させるなど、いわゆる「ハイブリッド戦」の手法を用いたとみられています。ウクライナについても、政治指導者による情報の発信や米企業提供の衛星インターネットを活用した無人機運用などを実施しているとされています。

安全保障上の課題

激しさを増す国家間の戦略的競争 各国は国防研究開発への投資を拡大

◆ 国際秩序に対する挑戦への対応が世界的な課題に

グローバルなパワーバランスの変化を背景に国家間の戦略的競争は激しさを増しており、中国の広範かつ急速な軍事力の強化、ロシアのウクライナ侵略、中露の連携などにより、このような戦略的競争はさらに複雑化し、国際秩序をめぐる争いが世界的な課題になっています。



【CNP/時事通信フォト】



経済安全保障推進法の成立

米国は経済安全保障を国家安全保障に位置づけ

◆ 安全保障の裾野が経済・技術分野に急速に拡大

技術の発展に伴い、AIを搭載したドローンが攻撃や偵察活動を行ったり、偽情報の流布、情報拡散といった影響工作も高度化するなど、戦いの様相に変化が生じています。

経済や安全保障にとって重要となる新興技術の分野で優位を獲得する国が、国家間の競争において有利となるとの認識のもと、各種技術の開発、活用、管理などが政策上の焦点となっています。

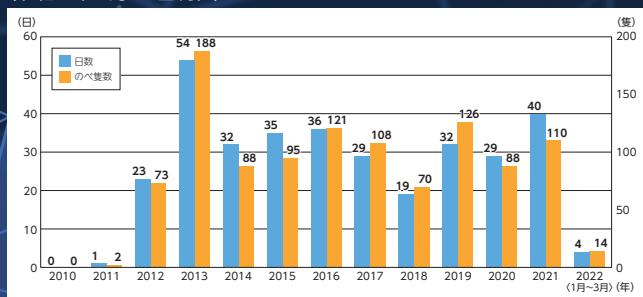
今後のインド太平洋地域の安全保障環境は？

◆ 中国は、尖閣諸島周辺において力を背景とした一方的な現状変更の試みを執拗に継続しています。また、南シナ海においても、一方的な現状変更及びその既成事実化を一層推し進めています。

中国はウクライナ侵略に対する国連の決議を棄権するとともに、近年ロシアとの連携を強化

中国艦艇とロシア艦艇の共同航行（2021年10月）

▶ 中国海警局に所属する船舶などによる尖閣諸島周辺の領海侵入日数・のべ隻数（令和4年3月28日現在）



北朝鮮はロシアを擁護
ウクライナ侵略下でも
ICBM級を含む
弾道ミサイル発射を
繰り返して挑発を強化

「火星17」型ICBM級弾道ミサイルとして、朝鮮中央通信が伝えた画像【EPA=時事】



FOCUS1にあるような厳しい安全保障環境において、わが国を防衛するとともに、
平和を創り出すために重要なのが「抑止力」です。

◆ 抑止力とは...

他の国に対し侵略を思いとどまらせる力のこと

**力を背景とした現状変更を阻止するためにも、
抑止力は不可欠です。**

- 必要な防衛力を持つことで、自国への侵略はできないと他国に理解させ、侵略を思いとどまらせることが国家間や地域の安定化にとって不可欠です。
- 強固な同盟により、第三国からの侵略に対し共同で抑止が可能です。
- ある国が有する抑止力をその同盟国などに提供することを「拡大抑止」と言います。例えば、米国はわが国に、同国の各種能力を通じて、拡大抑止を提供しています。
- 条約などに基づき、侵略国に対して集団で対抗（経済制裁、軍事制裁など）する体制をとることも抑止力となり、NATOがその例です。



抑止に関するわが国の取組の一例



防衛力を十分に発揮するためには、平素から戦術
技量や対処能力を維持・向上させる必要があり、
訓練・演習はそのための重要な要素の一つです。
このことは、わが国の堅固な防衛態勢と強固な
防衛意思を明示することにつながり、他国に侵略
を思いとどまらせる抑止力として機能します。

生む「抑止力」

わが国自身の防衛体制の強化

◆ 防衛力により、わが国に侵害を加えることは容易ではないと相手に認識させ、脅威が及ぶことを抑止します。

F-35から発射される
空対空ミサイルAIM-120



12式地对艦誘導弾



防衛力を大幅に強化するため、令和4(2022)年度当初予算は、「防衛力強化加速パッケージ」として、令和3(2021)年度補正予算と一体して編成しました。

▶南西地域への部隊配備(概念図)



日米同盟の強化

◆ わが国の防衛力を主体的・自主的に強化しつつ、宇宙やサイバーを含む幅広い領域・分野において協力を深化し、日米同盟の抑止力・対処力を強化しています。



海自護衛艦「いずも」への米海兵隊F-35Bの着艦



日米防衛相会談(2022年5月)

宇宙領域における取組

◆ 宇宙領域専門部隊の強化、JAXA・米国などとの連携強化、衛星コンステレーションに関する取組の推進などにより、宇宙領域における能力を抜本的に強化しています。

宇宙作戦群の新編



宇宙状況監視任務の開始に向けた訓練や装備品の取得を推進

宇宙状況監視システム (SSAシステム) の運用開始を予定

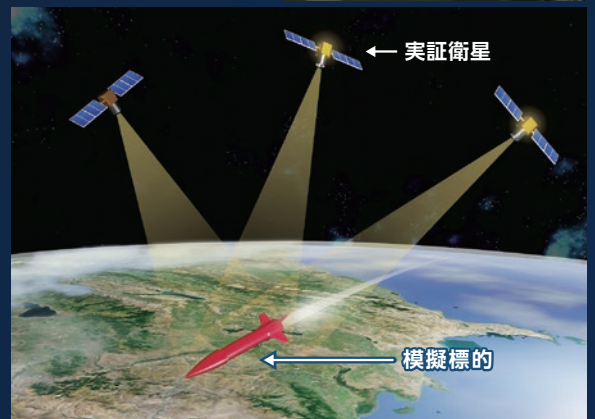


JAXA 美星光学望遠鏡 (JAXA との連携)

防衛省宇宙状況監視レーダー (イメージ、2023年度運用開始予定)

ミサイル防衛のための衛星コンステレーション活用の検討

HGV / 中国の DF-17 [AFP=時事]



HGV 探知・追尾衛星の実証機 (イメージ)

※ 衛星コンステレーション：多数の小型人工衛星が一体となって様々な機能を担う衛星群
 ※ HGV：Hypersonic Glide Vehicle、極超音速（マッハ5以上）で滑空飛行・機動し、目標へ到達するとされる極超音速滑空兵器

サイバー領域における取組

◆ 専門部隊の強化、実戦的な演習への参加、要員の養成などによりサイバー防衛能力を抜本的に強化しています。

将来のシステム・サイバー業務に携わる要員を育成



陸自高等工学校にシステム・サイバー専修コースを設置

自衛隊サイバー防衛隊の新編



[NATO サイバー防衛協力センター (CCDCOE (Cooperative Cyber Defense Centre of Excellence))]

NATO サイバー防衛協力センター主催の演習「ロックス・シールズ」に参加



サイバー防護競技会 (陸自主催) を実施し米仏豪など参加各国との協力関係を強化



や分野における取組

電磁波領域における取組

- ◆ 平素から電磁波収集・分析を実施し、有事においては、相手の電磁波利用を無力化することで各種作戦を優位に進める体制を構築しています。



電子作戦隊の新編

南西地域における電子戦部隊の整備を進め、電子戦能力を強化

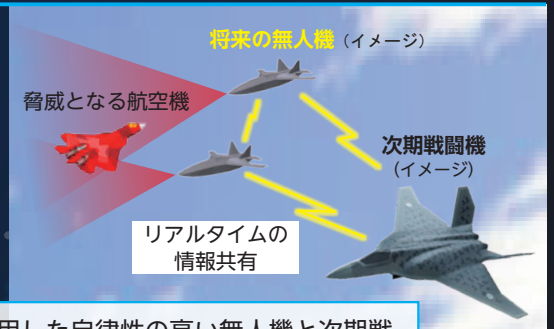


活動中の電子戦部隊



先端技術分野での取組

- ◆ 防衛省は、先端技術における優位性を獲得し、新たな戦い方につなげていくための様々な取組を進めています。



従来の装備品などでは対処が困難な極超音速誘導弾などの脅威に対処するため、電磁力により砲弾を高初速で連射可能な、レールガンシステムの研究を推進しています。



人工知能 (AI) 技術を適用した自律性の高い無人機と次期戦闘機などの有人機との連携に関する研究を推進しています。



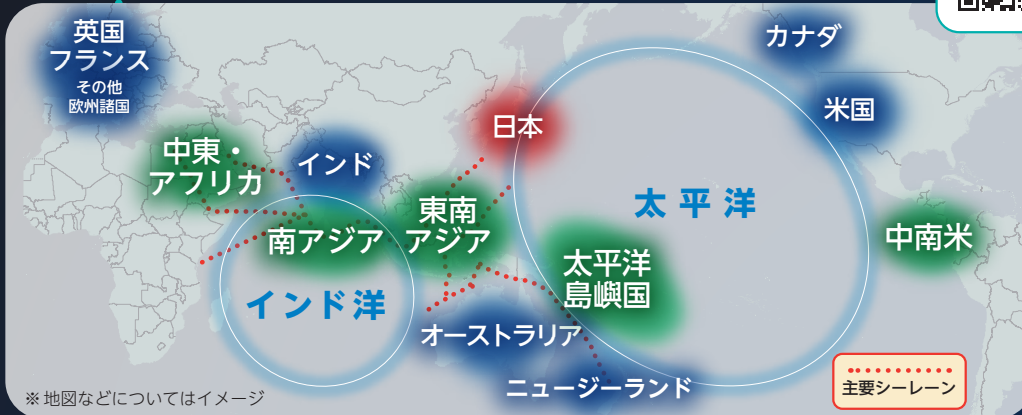
ドローンの飽和攻撃などに対処するため、高出力マイクロ波 (HPM) に関する技術の実証を推進しています。

「自由で開かれたインド太平洋」

◇わが国にとって望ましい安全保障環境を創出するため、各国との安全保障協力を推進しています。



FOIPに関する防衛省の取組について9か国語でご覧いただけます。



インド太平洋地域は、世界人口の半数を擁する世界の活力の中核であり、主要なシーレーンが通過しています。「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」というビジョンは、インド太平洋地域において、法の支配に基づく自由で開かれた秩序を実現することにより、地域全体、ひいては世界の平和と繁栄を確保していくとの考え方に根ざしたものです。FOIPは包摂的なものであり、この考えに賛同するのであれば、いずれの国とも協力可能です。

FOIPの維持・強化に向けたパートナーとの協働

防衛省では、FOIPの維持・強化に向けて、日米同盟を基軸としつつ、オーストラリア、インド、英国、フランス、ドイツなどの欧州諸国、カナダ、ニュージーランドといった、FOIPというビジョンを共有し、インド太平洋地域に繋がりを持つ多くの国々との間で積極的に協働します。



統幕長とドイツ連邦総監との会談



日独2+2 (テレビ会議)



ドイツ海軍フリゲート「バイエルン」が日本寄港
また、統幕長・陸幕長・海幕長・空幕長がそれぞれのカウンターパートと相次いで会談



海幕長とドイツ海軍総監との会談



陸幕長とドイツ陸軍総監とのテレビ懇談



空幕長とドイツ空軍総監との会談

FOIPの維持・強化に向けて協力を強化する国・地域

重要なシーレーンが通過する、ASEANを含む東南アジア・南アジア諸国、太平洋島嶼国に加え、エネルギー安全保障上重要な中東やアフリカ、中南米といったインド太平洋の各地域との間で、防衛協力・交流の幅広い手段を活用しながら、FOIPの維持・強化に向けて協力を強化することとしています。

防衛省において初となる大臣級の多国間国際会議開催



初の開催となった日・太平洋島嶼国防大臣会合 (JPIDD)



カンボジア陸軍司令官の訪日

安全保障環境の創出

インド太平洋地域での能力構築支援

コロナ禍を踏まえ、対面・オンラインのハイブリッドで能力構築支援を実施



ODA供与品(人命救助機材)を用いての、フィリピンに対する能力構築支援(HA/DR)



豪主催の東ティモールに対する能力構築支援「ハリイ・ハムトゥック」への参加



ベトナム人民軍UNISFA参加部隊に対し、各種物品の梱包に関する助言及び実技支援の実施



オンライン形式で実施したASEANに対する能力構築支援(サイバーセキュリティ)

インド太平洋地域での主要訓練

※ 地図はイメージ

IPD21



IPD21 旗艦「かが」出国



ベトナム海軍との訓練

米国主催大規模広域訓練 (LSGE21)



「いせ」艦上の陸自AH-64D(手前)と米海兵隊MV-22B

英空母クイーン・エリザベスの日本寄港に合わせ、各種訓練を実施



英空母クイーン・エリザベス【時事【英海軍提供】】

パシフィック・クラウン21



IMED21



スリランカ海軍との親善訓練

ベンガル湾 南シナ海 フィリピン海

アラビア海

インド洋

日米英蘭加新共同訓練



米英空母3隻と「いせ」

ラ・ペルーズ21



フランス海軍及び日米豪印4か国による共同訓練

マラパール2021



日米豪印の連携深化

カマンダグ21



比海兵隊との災害救援活動に係る共同訓練

日比人道支援・災害救援共同訓練



空自とフィリピン空軍初の共同訓練

概観

第1章
P.1

激しさを増す国家間競争と、既存の秩序に対する挑戦

P.1

パワーバランスの変化を背景とし、現在、政治・経済・軍事などにわたる国家間の競争が顕在化している。中でも、米中の戦略的競争が激しさを増すとともに、ロシアによるウクライナ侵略など、既存の秩序に対する挑戦への対応が世界的な課題になっている。このような国家間の競争は、ソーシャル・ネットワークなども含め、多様な手段により平素から恒常的に行われており、軍事的手段と非軍事的手段を組み合わせた「ハイブリッド戦」がとられることもある。

また、テクノロジーの進化は安全保障のあり方を根本的に変えようとしており、各国は人工知能(AI)、極超音速技術などいわゆるゲーム・チェンジャーとなりうる先端技術の開発や活用に注力するとともに、こうした技術の流出防止など経済安全保障の重要性が認識されるようになっている。科学技術・イノベーションは激化する国家間の競争の中核となっている。



2021年9月に行われた米中電話首脳会談【AFP=時事】

安全保障面で様々な課題を抱えるインド太平洋地域

P.2

わが国が置かれたインド太平洋地域は、グローバルなパワーバランスの変化の影響を大きく受け、安全保障面では様々な課題を抱えている。特に台湾や南シナ海では、米中の対立が顕在化している。

加えて、朝鮮半島においては半世紀以上にわたり同一民族の分断が継続している。加えて、近年では、いわゆるグレーゾーンの事態が国家間の競争の一環として長期にわたり継続する傾向にあり、こうしたグレーゾーンの事態は、明確な兆候のないまま、より重大な事態へと急速に発展していくリスクをはらんでいる。



台湾海峡通過中の第七艦隊所属駆逐艦【米海軍】

ロシアによるウクライナ侵略

第2章
P.6

力による一方的な現状変更はアジアを含む国際秩序の根幹を揺るがす行為

P.6

2022年2月に開始されたロシアによるウクライナ侵略は、ウクライナの主権及び領土の一体性を侵害し、武力の行使を禁ずる国際法と国連憲章の深刻な違反である。このような力による一方的な現状変更は、欧州のみならず、アジアを含む国際秩序全体の根幹を揺るがすものである。

国際の平和及び安全の維持に主要な責任を負うこととされている安保理常任理事国が、国際法や国際秩序と相容れない軍事行動を公然と行い、罪のない人命を奪っているという事態は前代未聞と言えるもの。このようなロシアの侵略を容認すれば、アジアを含む他の地域においても一方的な現状変更が認められるとの誤った含意を与えかねず、わが国を含む国際社会として、決して許すべきではない。

今般の侵略を通じ、ロシアの今後の中長期的な国力の低下や、周辺地域との軍事バランス・中国との軍事協力に変化が生じる可能性がある。さらに、米中の戦略的競争の展開やアジアへの影響を含め、グローバルな国際情勢にも影響を与えうることから、関連動向について、強い関心を持って注視していく必要がある。



ウクライナ国内を走行するロシア軍の装甲車【SPUTNIK/時事通信フォト】

諸外国の防衛政策など

第3章
P.19

競争力強化と同盟国・パートナー国との協力を重視する米国

P.19

バイデン政権は、米国の優位性を再構築し、中国との戦略的競争に勝利することを重視してきた。2022年3月には、国家防衛戦略の概要において、中国を最も重大な戦略的競争相手であり、刻々と深刻化する課題と位置づけ、最優先で対応するとし、次にロシアの課題を優先するとした。

また、同盟国やパートナー国との協力強化の方針を示し、2021年9月には、日米豪印4か国の「クアッド」として初となる対面の首脳会談を行うとともに、豪英米3か国による新たな安全保障協力の枠組み「AUKUS（オーカス）」を設立した。翌年2月には、バイデン政権の地域戦略として初となる「インド太平洋戦略」も発表している。

同年3月に発表した2023会計年度予算では、統合抑止などへの投資を重視するとともに、宇宙、サイバー、人工知能（AI）などのイノベーション及び近代化への投資を優先としている。



日米豪印首脳会談（2021年9月）【内閣広報室】

軍民融合などにより「智能化」を進め、「世界一流の軍隊」を目指す中国

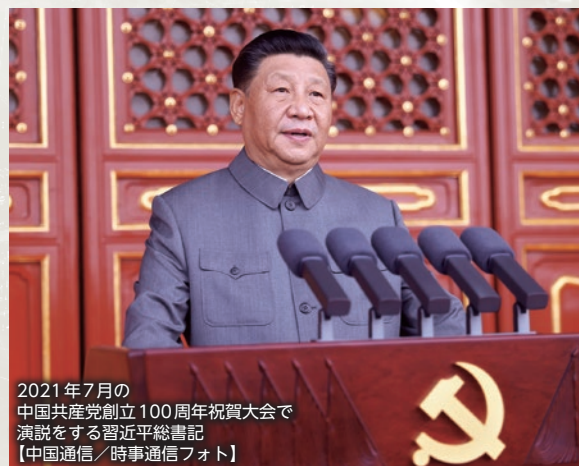
P.29

21世紀中頃までに「世界一流の軍隊」の建設を目指す中国は、過去30年以上にわたり高い水準で国防費を増加させ、核・ミサイル戦力や海上・航空戦力を中心に、軍事力の質・量を急速に強化している。2021年夏頃には、迎撃がより困難とされる極超音速滑空兵器の地球低周回軌道での発射実験が報じられるなど、関連動向が注目される。

また、軍隊資源と民間資源の双方向での結合を目指す軍民融合発展戦略を国家戦略として推進することなどにより、人工知能（AI）などを活用した「智能化戦争」を可能にすることで、「世界一流の軍隊」の建設を目指しているとみられる。

わが国周辺では、尖閣諸島周辺において力を背景とした一方的な現状変更の試みを執拗に継続しており、強く懸念される状況である。2021年10月には、ロシア軍とわが国を周回させる形で艦艇の共同航行を行っており、わが国に対する示威行動を意図したものと考えられる。

中国の軍事動向などは、国防政策や軍事に関する不透明性とあいまって、わが国を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念となっており、こうした傾向は近年より一層強まっている。



2021年7月の
中国共産党創立100周年祝賀大会で
演説をする習近平総書記
【中国通信／時事通信フォト】



中国海軍艦艇（右側）、ロシア海軍艦艇（左側）及び
中国海軍レンハイ級ミサイル駆逐艦搭載ヘリコプター-Z-9
(2021年10月22日)

米中両国の戦略的競争と、台湾をめぐる対立

P.63

バイデン政権は、中国を米国の繁栄、安全保障、民主的価値観に挑戦する「最も深刻な競争相手」と位置づけ、同盟国やパートナー国との協力によって中国を牽制する姿勢を鮮明にしている。また、経済安全保障を国家安全保障と位置づけ、重要技術や機微技術が中国の軍事力強化に転用されることを防ぐための取組を一層強化している。中国は、対抗措置となる法令などを相次いで施行しており、米中両国の戦略的競争は、その影響が国際的な広がりを見せている。

また、両国は台湾をめぐる対立を顕在化させている。米国は2021年4月、台湾当局との交流促進に関する「新ガイドライン」を発出し、米国の台湾への関与を推進する姿勢を示しており、米艦艇による台湾海峡通過や台湾への武器売却を継続している。一方、中国は2021年、中国軍機による台湾南西空域への進入を一層増加させたほか、台湾周辺の海空域における実動訓練の実施を発表している。

こうした状況を背景に、米国のみならず、欧州諸国などが台湾海峡の平和と安定への関心や懸念を相次いで表明している。台湾はわが国にとって、自由や民主主義といった基本的価値を共有する極めて重要なパートナーであるとともに、台湾をめぐる情勢の安定は、わが国の安全保障にとっても重要であり、力による現状変更は世界共通の課題との認識のもと、国際社会と連携しつつ、緊張感を持って注視していく必要がある。



米国が台湾に売却している
F-16V (A/B改修型) 戦闘機【台湾空軍】



訪台したEU議員団と面会する蔡英文総統
【台湾外交部】

国際社会への挑発をエスカレートさせる北朝鮮

P.77

北朝鮮は、技術的には、弾道ミサイルに核兵器を搭載してわが国を攻撃する能力を既に保有しているとみられ、また、極めて速いスピードで弾道ミサイル開発を継続している。変則軌道で飛翔する弾道ミサイルや「極超音速ミサイル」と称するものなどを立て続けに発射し、その態様も鉄道発射型や潜水艦発射型など多様化させており、ミサイル防衛網を突破する能力の向上に注力しているとみられる。加えて、特に2022年に入ってから、国際社会がウクライナ侵略に対応している中であっても、ICBM級弾道ミサイルを含む発射を極めて高い頻度で繰り返し、国際社会に対する挑発を一方向的にエスカレートさせている。

北朝鮮のこうした軍事動向は、わが国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威であり、地域及び国際社会の平和と安全を著しく損なうものとなっている。さらなる挑発行動に出る可能性も考えられ、こうした傾向は近年より一層強まっている。



鉄道からの短距離弾道ミサイル発射発表時
(2021年9月)に北朝鮮が公表した画像
【朝鮮通信=時事】

「強い国家」を掲げるロシアと、中露の「戦略的連携」

P.103

「強い国家」を掲げるロシアは、ロシア周辺におけるNATOの軍事活動などを脅威であるとし、米国との核戦力のバランスを確保したうえで、2022年から極超音速巡航ミサイル「ツィルコン」の量産型配備を計画するなど新型兵器の配備を進めるほか、電子戦装備などによる非対称戦能力の向上を図ってきた。ロシアは、ウクライナをはじめとする旧ソ連諸国のNATO新規加盟を認めないと主張し、2021年秋以降、ウクライナ周辺などにロシア軍部隊を集結させるなどしてきたが、2022年2月、ウクライナへの全面的な侵略を開始した。

わが国周辺では、ロシア軍と中国軍が爆撃機の共同飛行や艦艇の共同航行を実施するなど、中国との連携を強化する動きもみられるとともに、こうした軍事面の協力を「戦略的連携」をしてアピールするような動きもみられ、今後もその動向を懸念を持って注視する必要がある。



2022年2月に行われた中露首脳会談
【AFP=時事】

宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域をめぐる動向・国際社会の課題

第4章
P.157

科学技術の発展と安全保障への影響

P.157

特に民生分野の技術が急速に発展する中、安全保障面への影響が注目されている。例えば、人工知能（AI）などの技術の活用により、今後さらに戦闘の無人化や省人化が進んでいくほか、意思決定の精度やスピードにも変革が起こる可能性がある。また、サイバー攻撃など、従来の軍事力に限られない多様な手段により他国を混乱させる手法はすでに実例があり、いわゆるグレーゾーンの事態が増加・拡大する可能性もある。

こうした中、各国は技術的優越を確保すべく、研究開発への投資を拡大し、いわゆるゲーム・チェンジャーとなりうる技術の開発や活用に注力している。加えて、技術開発や生産の独立性を高め、サプライチェーンの強靱化を図るなど、いわゆる「経済安全保障」の観点からの施策を講じている。



攻撃型ステルス無人機「攻撃11」（中国の建国70周年軍事パレード）
【SPUTNIK/時事通信フォト】

一層重要性を増す宇宙・サイバー・電磁波領域

P.164

宇宙空間を利用した技術や情報通信ネットワークは、人々の生活や軍隊にとっての基幹インフラとなっている。一方、中国やロシアなどは、他国の宇宙利用を妨げる能力を強化し、国家や軍がサイバー攻撃に関与していると報告されており、宇宙空間やサイバー空間の安定的利用の確保は各国の重要課題となっている。

また、各国は、宇宙・サイバー空間における能力を、電磁波領域における能力とあわせ、敵の戦力発揮を効果的に阻止する攻撃手段として認識し、能力向上を図っている。



ロシアの電子戦システム「パランティン」【ロシア国防省】

国際社会の対応が求められる気候変動

P.187

近年、気候変動が安全保障に与える様々な影響が認識されるようになってきている。例えば、気候変動は、政治的・経済的に脆弱な国家の安定性を揺るがしかねない旨指摘されており、こうして不安定化した国家に対し、軍の活動を含む国際的な支援の必要性が高まることも見込まれている。

「脅威の乗数」とも表現される気候変動に対し、国際社会の一体となった対応が求められている。



米国が主催した気候サミット（2021年4月）【NATO】

わが国の安全保障と防衛の基本的考え方

第1章
P.191

国家の独立、平和と安全を守る防衛力

P.191

平和と安全は、国民が安心して生活し、国が繁栄を続けていくうえで不可欠のものであるが、願望するだけでは確保できない。

このため、わが国は自らの防衛力とともに、日米同盟関係を強化し、隙のない防衛態勢を構築することにより、わが国の平和と安全を確保している。また、わが国に対する脅威の発生を予防する観点から、インド太平洋地域における協力などの分野で防衛力が果たす役割の重要性は増している。

わが国は、このような防衛力の役割を認識したうえで、外交や経済など様々な分野における努力を尽くすことにより、わが国の平和と安全を確保している。

また、わが国は、憲法のもと、専守防衛に徹し、他国に脅威を与えるような軍事大国とならないとの基本理念に従い、日米安保体制を堅持するとともに、文民統制を確保し、非核三原則を守りつつ、実効性の高い統合的な防衛力を効率的に整備している。



令和3年度自衛隊記念日観閲式において巡閲を行う岸田内閣総理大臣

わが国の安全保障と防衛に関する政策

第2章
P.196

新たな国家安全保障戦略などの策定に向け、あらゆる選択肢を議論

P.196

わが国の国家安全保障にかかる主要な文書としては、国家安全保障戦略、防衛計画の大綱（防衛大綱）、中期防衛力整備計画（中期防）がある。

岸田内閣総理大臣は、2022年1月、おおむね1年をかけて、これらの文書を新たに策定する旨発表しており、現在、関係閣僚間での議論が行われている。防衛省においては、防衛大臣を議長とする「防衛力強化加速会議」を立ち上げ、わが国の領土、領海、領空そして国民の生命と財産を守り抜くため、あらゆる選択肢について議論を行っている。

なお、現行の防衛大綱及び中期防は、2018年に策定されたものであり、宇宙・サイバー・電磁波を含む領域横断作戦や、平時から有事までのあらゆる段階における柔軟かつ戦略的な活動を可能とする「多次元統合防衛力」を構築することとしている。



防衛力強化加速会議で議長を務める岸防衛大臣

わが国の安全保障と防衛を担う組織

第3章
P.208

防衛省・自衛隊は、内閣に設置された国家安全保障会議で議論された基本的な方針のもとで、政策立案や任務の遂行を行っている。

また、防衛省・自衛隊は、陸・海・空自衛隊を一体的に運用する統合運用体制をとっており、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域を含め、領域横断作戦を実施しうる体制の構築に取り組んでいる。



防衛力整備など

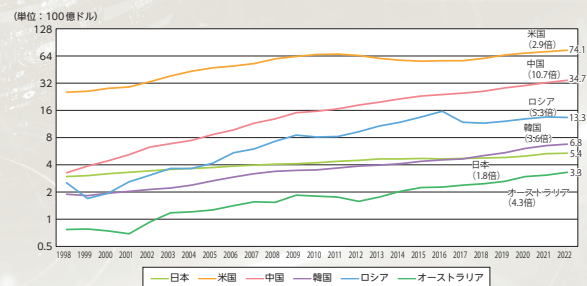
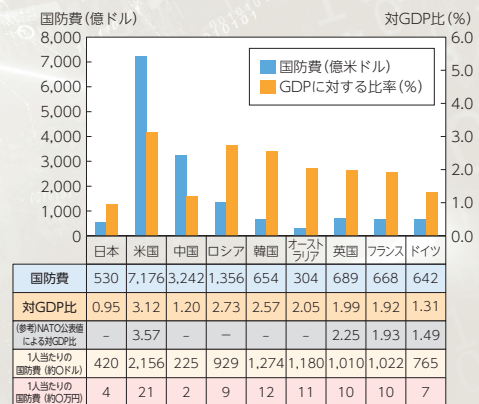
第4章
P.215

防衛力強化を加速するために

P.215

わが国周辺の安全保障環境がこれまでにない速度で厳しさを増す中、必要な防衛力を大幅に強化するため、令和4（2022）年度当初予算は、「防衛力強化加速パッケージ」として、令和3（2021）年度補正予算と一体して編成した。また、技術的優越の確保のため、ゲーム・チェンジャーとなりうる最先端技術などへの投資を大幅に増やすこととし、研究開発費は過去最大となっている。なお、令和4（2022）年度当初予算は、前年度と比べて553億円（1.1%）増の5兆1,788億円、米軍再編などを含めると5兆4,005億円であり、10年連続の増加を維持しており、過去最大である。

国防費について国際的に統一された定義がないこと、公表国防費の内訳の詳細が必ずしも明らかでないこと、各国ごとに予算制度が異なっていることなどから、国防支出の多寡を正確に比較することは困難である。そのうえで、わが国の防衛関係費と各国が公表している国防費を比較すれば、わが国は、G7諸国、オーストラリア及び韓国と比較し、国防費の対GDP比は最も低い。また、1人当たりの国防費は、オーストラリア・韓国・英国・フランス・ドイツいずれも日本の約2から3倍となっている。



自衛隊の行動などに関する枠組み

第5章
P.224

2015年に成立した平和安全法制においては、いかなる事態においても切れ目のない対応を可能とすべく、「存立危機事態」や「重要影響事態」などの政府として対処すべき事態を新たに定義づけており、政府としては、引き続き、対応に万全を期していく。

また、2021年8月の在アフガニスタン邦人等輸送の経験などを踏まえ、2022年に自衛隊法改正を行い、輸送手段を原則として政府専用機としていた制限の廃止、安全にかかる要件の見直し、主たる輸送対象者の拡大を行った。

わが国自身の防衛体制

第1章
P.235

防衛力の非代替性

P.235

防衛力は、わが国の安全保障を確保するための最終的な担保であり、わが国に脅威が及ぶことを抑止するとともに、脅威が及ぶ場合にはこれを排除し、独立国家として国民の生命・身体・財産とわが国の領土・領海・領空を主体的・自主的な努力により守り抜くという、わが国の意思と能力を表すものである。この意味で、防衛力は他のいかなる手段によっても代替できるものではない。

わが国を取り巻く安全保障環境が格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増している中で、宇宙・サイバー・電磁波を含むすべての領域における能力を有機的に融合し、その相乗効果により全体としての能力を増幅させる領域横断(クロス・ドメイン)作戦により、わが国の防衛を全うするとともに、平時から有事までのあらゆる段階における柔軟かつ戦略的な活動の常時継続的な実施を可能とする、真に実効的な防衛力として多次元統合防衛力を構築する。

また、自衛隊が有機的に連携し、迅速かつ効果的に任務を遂行するため、統合運用が極めて重要となる。

わが国自身の防衛体制



日米同盟



安全保障協力

防衛体制(3つの柱)

平時から
グレーゾーンの事態への対応

P.236

わが国の平和と独立を守るべく、自衛隊は平素からわが国の主権を侵害する行為に毅然として対応している。その一環として、わが国周辺において広域にわたり常時継続的な情報収集・警戒監視・偵察活動を行うとともに、柔軟に選択される抑止措置などにより事態の発生・深刻化を未然に防止するよう努めている。平時においては、領海、領空とその周辺海空域において情報収集及び警戒監視を行っているとともに、戦闘機などによる緊急発進(スクランブル)を実施している。

島嶼部を含む
わが国に対する攻撃への対応

P.248

多くの島嶼を有するわが国は、国民の生命、身体、財産、領土・領海・領空及び各種資源を防衛するため、安全保障環境に即した部隊配置、状況に応じた機動・展開を行う必要がある。脅威に関する兆候を得たならば、侵攻が予想される地域に、部隊を機動・展開し、侵攻部隊の接近・上陸を阻止する。

万が一、占拠された場合には、航空機や艦艇による対地射撃により敵を制圧した後、陸自部隊を着上陸させるなど、あらゆる措置を講じて奪回する。



警戒監視にあたる海自哨戒機



島嶼防衛に関する訓練の様子

するための手段)

宇宙・サイバー・電磁波の領域での対応

P.261

宇宙・サイバー・電磁波領域における自衛隊の活動に対する妨害を防止するとともに、事案発生時には、速やかに被害の局限を行う。わが国への攻撃に際しては、宇宙・サイバー・電磁波の領域を活用して攻撃を阻止・排除する。

宇宙領域に関して、宇宙空間の安定的利用を確保するための宇宙状況監視体制の構築や宇宙領域を活用した情報収集能力の向上を図っている。サイバー領域では、情報システムの安全性確保や専門部隊によるサイバー攻撃対処などを実施している。電磁波領域においても、電磁波に関する管理・調整や情報収集機能の強化などを推進している。



宇宙に関連する訓練に従事する隊員

大規模災害などへの対応

P.272

自衛隊は、自然災害をはじめとする災害の発生時には、地方公共団体などと連携・協力し、被災者や遭難した船舶・航空機の捜索・救助、医療などの様々な活動を行っている。また、自衛隊は在外邦人等を保護するための任務も遂行している。



人命救助にあたる隊員

平和安全法制施行後の自衛隊の活動状況など

P.278

2016年の平和安全法制施行後、この法制にかかる各種準備・訓練を実施してきた。これに関する実任務の実績として、自衛隊法第95条の2に基づく米軍等の部隊の武器等の警護があり、2021年には、豪軍に対する警護をはじめて実施した。

日米同盟

第2章
P.280

わが国の安全保障の基軸としての日米安保体制

P.280

日米安保条約に基づく日米安保体制は、わが国自身の防衛体制とあいまってわが国の安全保障の基軸である。また、日米安保体制を中核とする日米同盟は、わが国のみならず、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定及び繁栄に大きな役割を果たしている。

わが国は、民主主義、人権の尊重、法の支配、資本主義経済といった基本的な価値観や世界の平和と安全の維持に関する利益を共有し、経済面においても関係が深く、かつ、強大な軍事力を有する米国との安全保障体制を基軸として、わが国の平和、安全及び独立を確保してきた。

防衛大綱では、日米同盟の抑止力及び対処力の強化のため、平時



日米防衛相会談（2022年5月）

から有事までのあらゆる段階や災害などの発生時において、わが国の平和と安全を確保するためのあらゆる措置を講ずることとしている。このため、各種の運用協力及び政策調整を一層深化させることとしている。

特に、宇宙領域やサイバー領域などにおける協力、総合ミサイル防空、共同訓練・演習、共同のISR活動及び日米共同による柔軟に選択される抑止措置の拡大・深化、共同計画の策定・更新の推進、拡大抑止協議の深化などを図ることとしている。

さらに、日米両国は自由で開かれた海洋秩序を維持・強化することを含め、望ましい安全保障環境を創出するため、インド太平洋地域におけるプレゼンスを高めることも勘案しつつ、防衛装備・技術協力、施設・区域の共同使用の拡大、今年度は海自護衛艦「いずも」へのF-35B発着艦検証など、日米共同の活動を実施している。

また、在日米軍のプレゼンスは抑止力として機能している一方で、在日米軍の駐留に伴う地域住民の生活環境への影響を踏まえ、各地域の実情に合った負担軽減の努力が必要である。特に、在日米軍の再編は、米軍の抑止力を維持しつつ、沖縄をはじめとする地元の負担を軽減するための極めて重要な取組であることから、防衛省としては在日米軍施設・区域を抱える地元の理解と協力を得る努力を続けつつ、米軍再編事業を進めている。



日米共同統合演習



海自護衛艦「いずも」へのF-35B発着艦検証

安全保障協力

第3章
P.325

多角的・多層的な安全保障協力の戦略的な推進に向けて

P.325

防衛省・自衛隊は「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP) というビジョンのもと、二国間・多国間での防衛協力・交流を推進している。また、各国と東シナ海・南シナ海情勢への深刻な懸念を共有したうえで、力を背景とした一方的な現状変更及びその既成事実化の試みに強く反対するメッセージを明確に発信している。

東南アジア・南アジア・太平洋島嶼国及び中東・アフリカ・中南米地域の諸国に対しては、防衛協力・交流のツールである、人による協力・交流、部隊による協力・交流、能力構築支援、防衛装備・技術協力といった幅広い手段を活用しながら、FOIPの維持・強化に向けて協力を強化することとしている。

同盟国である米国をはじめ、オーストラリア、インド、また、英国、フランス、ドイツなどの欧州諸国、カナダ及びニュージーランドは、



ハイレベル交流(日英防衛相会談)

するための手段)

わが国と基本的価値を共有するのみならず、インド太平洋地域に地理的・歴史的なつながりを有する国々である。これらの国々に対しては、インド太平洋地域へのさらなる関与を行うよう働きかけるとともに、同地域においてパートナーとして協働することで、わが国単独の取組よりも効果的な協力を実施できるように防衛協力・交流を進めている。

宇宙及びサイバー領域においても、関係国と情報共有、協議、演習、能力構築支援などを通じ、連携・協力を強化し、優位性の早期獲得や国際的な規範の形成に取り組んでいる。

海洋安全保障の確保

P.373

わが国にとって海上交通の安全確保は平和と繁栄の基礎であり、自衛隊は、2009年以降、水上部隊及び航空部隊などを派遣し、ソマリア沖・アデン湾において船舶を海賊行為から防護する活動を継続している。



能力構築支援 (バブアニューギニア)

軍備管理・軍縮及び不拡散への取組

P.383

大量破壊兵器やその運搬手段となりうるミサイル、武器及び軍事転用可能な貨物・機微技術に関する軍備管理・軍縮・不拡散のための国際的な取組に、わが国も積極的に参画している。



UNMISSにおける業務の様子

国際平和協力活動への取組

P.386

防衛省・自衛隊は、紛争・テロなどの根本原因の解決などのための開発協力を含む外交活動とも連携しつつ、国際平和協力活動などに積極的に取り組んでいる。2022年は、国際平和協力法制定・施行から30年となる。

国際平和協力業務として、多国籍部隊・監視団 (MFO、エジプト・シナイ半島) 及び国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) に司令部要員を派遣している。そのほか、国連事務局にも継続的に自衛官及び事務官を派遣している。

また、人道的貢献及びグローバルな安全保障環境の改善の観点から、国際緊急援助活動を実施しており、2022年1月には、大規模な火山噴火が発生し、被害を受けたトンガに対し、緊急援助物資の輸送を実施した。



トンガへの国際緊急援助

訓練・演習に関する諸施策

第1章
P.395

抑止力・対処力強化のための訓練

P.395

自衛隊はわが国を防衛するという厳しい任務を果たすため、平素から統合訓練や陸・海・空自衛隊による各種訓練などを実施しており、その内容は従来の領域にとどまらず、宇宙・サイバー・電磁波を含む新領域にも及んでいる。これらの領域をうまく活用し、防衛力を高めるべく、領域横断作戦能力の向上を図っている。

また、日米同盟の抑止力・対処力を強化するため、各自衛隊は、各軍種間での共同訓練や日米共同統合演習を実施するとともに、その内容を年々深化させている。

さらに、「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP) というビジョンに基づき、多角的・多層的な安全保障協力を戦略的に推進するため、広くインド太平洋地域における同盟国、友好国との共同訓練・演習に積極的に取り組んでいる。

厳しさを増す安全保障環境において、わが国の平和と独立を守り抜くためには、現状の自衛隊が持つ抑止力・対処力に満足することなく、自らがより精強になるとともに、同盟国・友好国との連携能力を向上させる必要があることから、さらなる抑止力・対処力の獲得に努めている。

パートナーシップ強化のための訓練

P.402

自国の平和を維持するためには、抑止力・対処力を強化しつつ、自国を取り巻く安全保障環境の安定化が不可欠であるとの認識のもと、広くインド太平洋地域において同盟国・友好国との共同訓練を積極的に推進している。こうしたパートナーシップ強化により、一国のみでは対応が困難なグローバルな安全保障上の課題や不安定要因への対応に向けた連携強化に努めている。

海自輸送艦「おおすみ」から発進する陸自水陸両用車
(自衛隊統合演習の様子)訓練開始にあたり懇談する日米両指揮官
(日米共同方面隊指揮所演習 (YS-81) の様子)

日米豪の戦闘機による飛行訓練 (共同訓練コープ・ノース22の様子)



米英空母3隻と海自護衛艦「いせ」(日米英蘭加新共同訓練の様子)

人的基盤・知的基盤の強化

第2章
P.410

自衛隊員は防衛力の中核（人的基盤の強化）

P.410

防衛力の中核は自衛隊員であり、自衛隊員の人材確保と能力・士気の向上は防衛力の強化に不可欠である。これらは、人口減少と少子高齢化の急速な進展によって喫緊の課題となっており、防衛力の持続性・強靱性の観点から、自衛官などの募集・採用、教育、人的資源の効果的な活用に向けた施策などに取り組んでいる。また、ワークライフバランスと女性の活躍推進にも積極的に取り組んでいる。



女性自衛官の活躍
(水陸両用基本課程訓練中の様子)

未来の防衛政策の力に（知的基盤の強化）

P.432

わが国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増していることを踏まえ、防衛省の研究・教育機関において、平素から研究の質をより高め、その成果をわが国の政策立案に反映している。

また、そうした研究の成果を踏まえ、わが国の安全保障政策に関する知識や情報について、より一層国民の理解を促進することが重要になってきていることから、防衛研究所を中心とする研究体制を強化している。



防衛研究所

衛生機能の強化

第3章
P.434

自衛隊員の生命を最大限守るために

P.434

防衛省・自衛隊が任務を遂行するためには、隊員の健康を適切に管理し、部隊の壮健性を維持していくことが必要であり、各種事態に対応する隊員の生命を最大限に守ることができるよう衛生機能の充実・強化に不断に取り組んでいる。

このため、防衛省・自衛隊においては、第一線から最終後送先までのシームレスな医療・後送態勢を強化することとしているほか、自衛隊病院の拠点化・高機能化を図っており、令和3（2021）年度はその一環として自衛隊入間病院を開院した。

加えて、自衛隊の任務が多様化・国際化する中で、災害派遣や国際平和協力活動における衛生支援や医療分野における能力構築支援など様々な衛生活動のニーズに正確に答えていくこととし、自衛隊衛生の根幹となる人的基盤を強化すべく、防衛医科大学校の機能強化、医官・看護官などの確保・育成を推進している。

なお、国内における新型コロナウイルス感染症への対策の一環として、自衛隊病院における患者受け入れに加え、新型コロナウイルスワクチン接種を加速するため、東京及び大阪において2021年5月から同年11月にかけて自衛隊大規模接種センターを、2022年1月からは自衛隊大規模接種会場を設置・運営するなどの活動を実施した。



自衛隊入間病院



自衛隊大規模接種センターの様子

防衛装備・技術に関する諸施策

第4章
P.439

将来の戦闘様相を変える技術の進展

P.439

近年の軍事技術の進展は目覚ましいものとなっている。こうした技術の進展を背景に、現在の戦闘様相は、陸・海・空のみならず、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域を組み合わせたものとなっており、各国は、全般的な軍事能力の向上のため、これら新たな領域における能力を裏付ける技術の優位を追求している。

さらに、各国は、人工知能(AI)〈Artificial Intelligence〉などのゲーム・チェンジャーとなりうる最先端技術を活用した兵器の開発や研究に多額の研究開発費を投じ、早期実用化に取り組んでいる。また、量子技術、第5世代移動通信システム(5G) などをはじめとする(ICT)〈Information and Communication Technology〉分野の今後のさらなる技術革新は、将来の戦闘様相をさらに予見困難なものにするとみられる。

我が国の研究開発の状況と今後の焦点

P.439

装備品の高性能化・複雑化に伴い外国製装備品の輸入が高水準で推移していることに加えて、技術の高度化に伴い単価が高騰している装備品の導入により、近年の国内調達増額にもかかわらず、国内企業からの調達数量は減少傾向にある。そのため、わが国の防衛産業・技術基盤は厳しい状況となっている。

このような中、多次元統合防衛力の構築に必要な防衛力の「質」及び「量」を確保するには、①無人化・省人化を含めた統合運用の観点からの実効的かつ合理的な装備体系の見直し、②わが国の技術的優越の確保のため、戦略的な取組、研究開発の推進、民生技術の積極的活用などの技術基盤の強化、③装備品の高度化・複雑化によるコストの増加傾向に対して、装備品取得の効率化と組織的な管理体制に資する装備調達最適化、④高性能な装備品の生産と高い可動率を確保する産業基盤の強靱化、⑤防衛装備移転三原則に基づく防衛装備・技術協力に取り組むことが不可欠である。

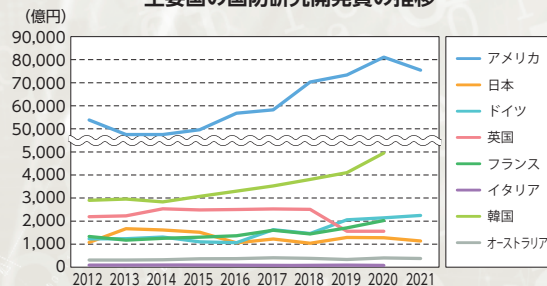
また、①～⑤の取組と合わせて、わが国経済の自律性や、わが国の技術などの他国に対する優位性、ひいては国際社会にとっての不可欠性などを高める観点から政府全体として重点的に推進している⑥経済安全保障の取組について、防衛省としても安全保障上の知見を活かして、積極的に協力していくことが極めて重要である。

ウクライナへの装備品等の提供

P.465

ロシアのウクライナ侵略を受けて、ウクライナ政府からの装備品等の提供要請を踏まえ、自衛隊法に基づき、非殺傷の物資を防衛装備移転三原則の範囲内で提供した。

主要国の国防研究開発費の推移



出典：「OECD: Main Science and Technology Indicators」

(注1)：各国の国防研究開発費は「OECD: Main Science and Technology Indicators」に掲載された各国の研究開発費及び国防関係予算比率から算出。ただし中国については記載されていない。

(注2)：数値はOECDの統計によるもので、国により定義が異なる場合等があり、このデータのみを持って各国比較する場合には留意が必要。



先端技術に関する研究開発 (高出力マイクロ波照射技術)



12式地对艦誘導弾 (能力向上型) の開発
【三菱重工業(株) 名誘より提供】

情報機能の強化

第5章
P.472

各種情報の迅速な収集などへの努力

P.472

情勢の推移に応じて的確に防衛政策を立案し、また、各種事態への対処において防衛力を効果的に運用するために、わが国周辺などにおける中長期的な軍事動向の把握や各種事態の兆候を早期に察知することが必須である。

そのため、防衛省は、次のような情報収集を実施している。

- ① わが国上空に飛来する軍事通信電波、電子兵器などの電波の収集・処理・分析など
- ② 衛星からの画像データ収集・判読・分析など
- ③ 艦艇・航空機による警戒監視
- ④ 各種公刊情報の収集・整理
- ⑤ 各国国防機関などとの情報交換
- ⑥ 防衛駐在官などによる情報収集など

防衛駐在官については、2022年4月1日現在、86大使館6代表部、73名を派遣している。



防衛駐在官（ウクライナ）の業務の様子

地域社会や環境との共生に関する取組

第6章
P.477

地域社会との調和

P.477

防衛省・自衛隊の様々な活動は、国民一人一人、そして、地方公共団体などの理解と協力があってはじめて可能となる。こうした考えのもと、今後とも防衛省・自衛隊は、地域社会・国民と自衛隊相互の信頼をより一層深めていくために必要な各種施策を推進していく。



防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム

環境問題への取組

P.485

防衛省・自衛隊は、従前から環境関連法令を遵守し、環境保全の徹底や環境負荷の低減に努めてきたところ、さらなる環境への取組の推進を図ることとしている。防衛省では、2021年5月に、防衛副大臣を座長とする防衛省気候変動タスクフォースを設置し、気候変動がわが国の安全保障に与える影響について評価・分析し、防衛省が与えられた任務・役割を果たしていけるよう幅広く検討を行い、今後、防衛省としての戦略文書を取りまとめることとしている。



気候変動タスクフォースにおける議論の様子

情報発信

P.488

国民や諸外国の信頼と協力を得るため、防衛省・自衛隊の活動について、分かりやすい広報活動を様々な方法で、より積極的に行っていく。

新型コロナウイルス感染症対応 (自衛隊大規模接種センターの運営)

参照
本文P.435

防衛省・自衛隊は、新型コロナウイルス感染症対策の決め手となるワクチン接種を推進し、感染拡大防止に寄与するため、2021年5月24日から同年11月30日まで、東京及び大阪において大規模接種センターを開設・運営し、延べ196万回の接種を行いました。

私は大阪大規模接種センターにおいて、2つあるフロア（3階と10階）の10階フロアにおけるフロアリーダーとして勤務しました。フロアリーダーとして、民間看護師と全国から派遣された看護官が配属される予診ブース、接種ブース、経過観察ブース、救護ブースの全般的な運用を行いました。



写真左が筆者

中部方面衛生隊（伊丹駐屯地）1尉 小島 貴子

Interview

本業務において実施した事項を教えてください

私は看護官として、業務開始前後には、自衛隊の看護官と民間の看護師の方へ認識共有を図るミーティングを行いました。日々の接種状況を確認しながら業務要領の変更を行い、勤務員に周知徹底を図る機会教育を行いました。センター長の指針「ともに安全・安心・ありがとう」のもと、自分たちの感染防止を常に意識し勤務に臨んでいました。

業務において困難だった点を教えてください

全国の部隊から派遣された自衛官と民間の看護師間で、お互いの認識の統一を図るまでが困難でした。意見聴取や意見交換を行い「国民一体」を築き、それぞれが出した案の中でより良い方法を取り入れ、業務調整を行いました。

業務においてやりがいを感じた点を教えてください



大規模接種センターでの勤務風景

自衛隊の看護官として、国の接種を後押しする大規模接種に関われたことにやりがいを感じました。国家の安全のため、感染抑制のためのワクチン接種の担い手のひとりになったこと、そして、国としてのワクチン接種率が高まったことで、私たち自衛官がその一員としての役割を果たせたのではないかと感じています。

そのほか、現場で感じたことなどについて教えてください

近畿圏内の高齢者へのワクチン接種から、感染拡大に伴い全国の若年者への接種へと拡大されていきました。接種状況が刻々と変化しそのニーズに自分たちが対応していることを実感しました。



打ち合わせの様子（写真右が筆者）

パシフィック・クラウン21への参加

参照
本文P.405

2021年8月25日から28日までの間、護衛艦「いせ」、「あさひ」及び「てるづき」が、日本周辺海域において、英空母「クイーン・エリザベス」をはじめとする英・米・蘭海軍による空母打撃群と「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて連携を強化すべく、パシフィック・クラウン21に参加し各種戦術訓練を実施しました。

英空母打撃群との共同訓練は、長い歴史と伝統のある日英防衛協力が、「新たな段階」に入ったことを象徴するものとなりました。また、オランダ海軍の日本寄港は21年ぶりであり、海上自衛隊とオランダ海軍との関係強化につながりました。



僚艦と部隊運用の調整をする筆者

護衛艦いせ船務長（佐世保基地）2等海佐 **いそべ ようへい** 機部 洋平

Interview

本訓練において実施した業務を教えてください

いせ船務長として、艦の任務を遂行するとともに、共同訓練参加艦の動静を注視し、本艦にて訓練の指揮を執った第2護衛隊群司令と幕僚の補佐を行いました。

業務において困難だった点を教えてください

新型コロナウイルスの影響もあり、訓練に参加した各国の士官とは、直接顔を合わせる機会はありませんでしたが、オンラインで交流を深め、円滑に訓練を行うことができました。また、台風シーズンということもあり、荒天時は搭載航空機の飛行にも大きな影響が出るため天候にも絶えず注意を払いました。幸いにも期間中は好天に恵まれ、絶好の訓練日和でした。

業務においてやりがいを感じた点を教えてください

事前に対面せずとも、洋上で英米蘭各国の艦艇と会合した後は、まるで艦同士が旧知の友であるかのように、阿吽の呼吸で任務を遂行することができました。海上自衛隊と各国海軍が共通の価値観と不変のシーマンシップを共有していることを肌で感じ、その中の1人として、共に行動していることに大きな喜びを感じました。



入港時、艦橋にてタグボートを指揮する筆者



訓練の進捗を確認する筆者（右）

そのほか、現場で感じたことなどについて教えてください

英蘭海軍は遥々欧州から日本までやってきましたが、本訓練を通じて、改めて世界が海でつながっていることを強く意識しました。インド太平洋地域と国際社会の平和と安定の確保のため、関係国との連携を一層深化させ、海軍種間の強固な絆を維持することの重要性について、改めて考える機会となりました。

令和3年 自衛官たちの足跡

東京オリンピックに参加して

参照
本文P.482

柔道は、「己を完成」し「世を補益」する事を目的とし、柔術の様々な利点と創意工夫された技術を加えた武道で、現在では、世界200か国以上の国と地域が国際柔道連盟に加盟している競技です。

自衛隊においては、体育活動及びその意義を隊員に普及・発展させ、自衛隊の精強化に寄与するために重要な武道の種目のうちの一つです。

今回の東京五輪では、個人競技（男女各7階級）と男女混合団体が実施され、濱田1尉が、1990年の創部以来、初めてのオリンピック出場選手として、2個（個人「金メダル」、混合団体「銀メダル」）のメダルを獲得しました。



はまだ しょうり
自衛隊体育学校柔道班 1等陸尉 濱田 尚里

Interview



©フォートキシモト

平素実施している業務について教えてください

特別体育課程学生として、国内外大会で優秀な成績を獲得できるよう、柔道の競技力強化（自衛隊体育学校、大学、実業団での実戦訓練）をするとともに、各種イベントに参加するなど、隊員の士気の高揚、自衛官の募集、広報に寄与しています。

オリンピックまでの訓練について、またその中で困難だった点を教えてください

五輪開催延期が決まり、「新型コロナ」の影響から、試合ができない時期に練習場所を確保するのに苦労しました。

そのような中、ライバルの実業団チームで、日本トップレベル選手との質の高い訓練により、自分の技を磨く練習ができたことで、日本代表という自覚と自信を持って東京五輪に臨む事ができました。心より感謝しています。

メダル取得後の感想を教えてください

入隊9年目での成果という事で、率直に嬉しさを実感するとともに、心から皆様に感謝しています。

1人だけの力ではなく、それまでの長い期間、支えて頂いた全ての方の力を結集した総合力で成し得た成果だと思っています。

そのほか、大会参加を通じて感じたことなどについて教えてください

今回の成果が、様々な任務で、活動している全ての自衛官の方々の励みになる事ができたのであれば、大変有り難いと思います。

特に最後のメダルセレモニーで、同じ自衛官が国旗掲揚して、敬礼している姿は、心に響きました。これからも自覚と責任感、感謝の気持ちを持って、自衛官アスリートとして、できる事を追求していきたいと思っています。



©フォートキシモト

東京オリンピック開会式の支援に参加して

参照
本文P.482

東京2020オリンピック開会式が2021年7月23日、国立競技場においてオリンピック憲章に基づき挙行されました。

防衛省・自衛隊は式典など大会運営への協力として、陸上自衛隊東部方面総監の下に「東京2020オリンピック・パラリンピック支援団」を陸上・海上・航空自衛官約8,500名をもって編成し、式典協力及び会場整理支援などの大会運営協力にかかる業務を行いました。その中で私は、式典協力隊・開閉会式支援班に配置され、オリンピック旗の掲揚要員として参加しました。



やまだ ゆきお
第1航空団（浜松基地）空曹長 山田 幸雄

Interview

平素の業務と開会式で実施した業務について教えてください

平素は、部隊の訓練担当者として、各種訓練の計画、立案及び隊員に対する教育指導を行い、精強な部隊及び自衛官育成のための業務に邁進しています。開会式では、陸上・海上・航空自衛官の代表6名でフラッグベアラーからオリンピック旗を引継ぎステージ上の掲揚ポールまで運搬するとともに、オリンピック賛歌に合わせて掲揚を行いました。

式典協力業務までどのような準備や訓練を実施したのかを教えてください

真夏の過酷な環境下における任務を想定し、酷暑の中、体力強化などの事前準備に万全を期しました。また、朝霞駐屯地において、陸上自衛隊第302保安警務中隊（特別儀仗隊）から基本動作の教育指導を受け、練度向上を図りました。

式典協力業務において困難だった点などを教えてください



パラリンピック開会式における国旗掲揚（旗の左端を持つ筆者）【EPA=時事】

陸上・海上・航空自衛隊における訓練内容の違いから、当初基本動作に違いがあり、斉一な動作の修得に時間を費やしましたが、オリンピックを成功させるという崇高な目的のため、隊員同士が相互に修正点を指摘するなど一致団結し、短期間で急成長を遂げることができました。

そのほか、現場で感じたことなどについて教えてください

リハーサル会場などでは、陸上・海上・航空自衛官の男女が制服を着用し、勢揃いするという精悍な光景に、一般市民の方々からいつも熱い視線を浴びていました。

また、防衛省・自衛隊に対する注目度の高さを実感しました。



オリンピック開会式におけるオリンピック旗掲揚（旗の左手前を持ち、掲揚台を上がる筆者）【AFP=時事】

陸上自衛隊

Japan Ground

Self-Defense Force



平和を仕事



Japan Air Self-Defense Force

航空自衛隊



にする



海上自衛隊

Japan Maritime Self-Defense Force

世界で活躍する自衛官

在イタリア日本国大使館



伊空軍参謀本部を訪問
(筆者 左側)
(引用:伊空軍HP、空幕Twitter)

- 1 一般幹部候補生(防大/2003年)
- 2 航空(回転翼)
- 3 在イタリア日本国大使館
- 4 1等海佐 阿部 将志
- 5 岩手県



海軍武官団研修で訪問した伊海軍艦上にて
(筆者 右端) 【伊海軍HP】

日本とイタリアの架け橋となるために

私はここイタリアで、防衛駐在官として防衛交流や情報収集に関する業務に携わっています。観光のイメージが先行しがちなイタリアですが、安全保障の分野でも精力的に活動しており、欧州では英仏独に並ぶ、主要国の一つです。また、イタリアには50か国以上から約90名の駐在武官が勤務しており、私もその中の一人であることに誇りと喜びを感じています。もちろん、日本の代表であることに重圧を感じることもあります。その重圧に負けることなく、2国間関係の深化のために尽力していく所存です。



休日にローマ市内を散策する筆者



在アフガニスタン日本国大使館



- 1 少年工科学校生徒(1990年)
- 2 機甲科
- 3 在アフガニスタン日本国大使館
- 4 2等陸佐 宇野 仁太郎
- 5 福岡県



カブールの大使館前で

運は自分次第!

私は自衛隊生活の多くを戦車部隊や職種学校で過ごしてきましたが、一念発起して独学で語学を学び、憧れであった防衛駐在官としてアフガニスタンに赴任することができました。2021年8月に在アフガニスタン・イスラム共和国に在留する在外邦人などの輸送に携わるなど激動の中での勤務でしたが、防衛駐在官として、得難い経験ができました。自衛隊は本人の努力次第でいろいろなる道が開かれていると実感しています。激動する国際情勢の最前線で、国内勤務の経験や国際社会での勤務経験を糧に今後も勤務に邁進していきたいと思えます。



インド武官との記念撮影

ベトナム (ハノイ)



- 1 陸曹候補士(2006年)
- 2 輸送科
- 3 中央輸送隊第3方面分遣隊
- 4 2等陸曹 境田 史誓
- 5 宮城県



ベトナム軍と危険物表示を確認中の筆者

ベトナム軍に対する能力構築支援に派遣されて

私は、2021年12月から約1か月間、ベトナムに派遣され、PKOに参加予定のベトナム人民軍に対し、装備品の輸送梱包などに関する助言などを行い、ベトナム軍の派遣準備の促進に協力して参りました。

私が所属する中央輸送隊は、日頃から、陸自部隊の国内での長距離移動やPKO派遣などの国際任務において輸送を担当しています。私は、日本海事検定協会の危険物検査員選任研修を修了しており、今回、この資格やこれまでの経験を生かして活動できたことに充

ベトナムPKO局における集合写真(上から2段目、中央やや右)



実感を感じました。さらに、限られた期間でしたが、日越二国間で協力して活動したことで、素晴らしい友情と大きな達成感を得ることもできました。ベトナム軍のPKOでの活躍を祈っています。

- 陸 ① 入隊区分
- ② 職域
- 海 ③ 部隊名
- ④ 階級・氏名
- 空 ⑤ 出身地



アメリカ (ワシントンDC)



- ① 一般幹部候補生 (防大／2008年)
- ② 固定翼操縦士
- ③ 米海軍作戦本部
- ④ 3等海佐 上田 桂裕
- ⑤ 静岡県



米海軍日本担当との懇談 (筆者：右側)

米海軍作戦本部での勤務 ～日米同盟の架け橋として～

私は、米国防省(ペンタゴン)内にある米海軍作戦本部にて、海上自衛隊の連絡官として勤務しています。そこでは、海上自衛隊と米海軍の戦略・政策について、お互いの考えや状況を理解しつつ最もよい方針を導き出す「日米同盟の架け橋」とも言える職務を担っています。

ほかに私は、オーストラリアでの多国籍訓練、アデン湾における海賊対処行動など国際的任務に携わり、昨年はロードアイランド州



米駆逐艦 Zumwalt 研修 (筆者：右から2番目)

にある米海軍大学に留学し約55か国の士官と共に学び、深い絆を結ぶことができました。

国際的な舞台で日の丸を背負い、この素晴らしい国と美しい海を共に守りましょう!

オーストラリア (キャンベラ)



- ① 一般幹部候補生 (一般／2009年)
- ② 兵器管制
- ③ 指揮幕僚課程 (現空幕防衛部防衛課)
- ④ 3等空佐 福山 聖士
- ⑤ 福岡県



空軍種交流会 (筆者：左から2番目)

オーストラリア留学

私は、豪州国防大学に留学し、指揮幕僚課程を履修しました。この課程の特色は統合の課程であること、そして、各国から多数の留学生を受け入れていることです。そのため、ディスカッションでは様々な視点から意見が出され、非常に活発な議論が展開されます。多様で開放的であることが、安全保障という様々な分野にまたがるテーマについて議論するうえで重要だと感じました。



スポーツイベントにおける各国留学生との集合写真 (筆者：中央後方)

私自身の日本での経験を基にした意見も、議論の深化に貢献できたと自負しています。自衛隊では、人材育成のために様々な機会を提供しています。皆さんも、私たちと一緒に国際社会を舞台に活躍してみませんか。

アメリカ (ハワイ州ホノルル)



- ① 一般幹部候補生 (防大／2000年)
- ② 操縦
- ③ 米太平洋空軍司令部
- ④ 1等空佐 奥村 昌弘
- ⑤ 北海道



米軍人と調整中

米太平洋空軍司令部での 日米関係深化への貢献

私は、広大な太平洋地域を担当している米空軍の司令部で、日米相互の情報交換と連絡調整に携わっています。日本とハワイは物理的には遠く離れていますが、日米間の心の距離を近づけ、日米関係を深化していくことに直接貢献することができる非常にやりがいのある仕事です。当地での米軍人との日々の交流を通して、米軍人が日本に対して良い印象を持ち、自衛隊をとても信頼していることを実感しています。



米軍との会議中

日米が同じ方向へ進んで行くうえでの信頼関係をより強くし、日米相互に補完し合うことができる関係の構築に尽力していきたいと思っています。

全国で活躍する自衛官

広島県（呉市）



- 1 練習員課程(2005年) 一般幹部候補生(部内)
- 2 クラフトマスター予定者
- 3 呉水陸両用戦・機雷戦術支援分遣隊
- 4 2等海尉 梅原 絵美
- 5 神奈川県



操縦訓練中の筆者

時速70キロで走る LCAC艇長を目指して

私は、2021年8月から輸送用エアクッション艇[LCAC]の操縦士になるために、広島県江田島市にあるLCAC訓練所で教育訓練を受けています。LCACは約50トンの物資を搭載及び輸送することが可能であり、空気の加圧クッション上に支持され、最大速度50ノットの速力で水面又は陸上を走行することができます。



揚陸するLCAC

現在日本には6隻配備されています。

LCACの操縦は非常に難しく揚陸訓練時は非常に緊張しますが、災害が発生した際には、速やかに現地の支援ができるよう頑張っています。

東京都（府中市）



太平洋空軍司令官と筆者

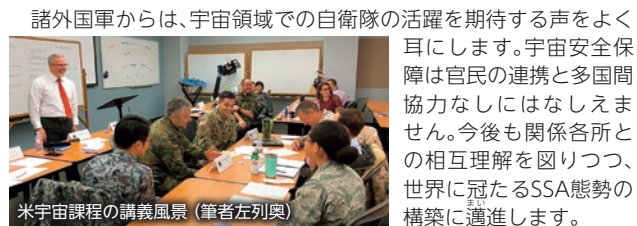
- 1 曹候補士(1998年)
- 2 宇宙
- 3 宇宙作戦群宇宙作戦隊
- 4 1等空曹 藤井 美奈子
- 5 福岡県



勤務中の筆者

宇宙状況監視(SSA)の 本格的な運用開始に向けて

SSAの本格的な運用に向けて、SSA運用要領や米国との連携要領を検討・具体化する業務に携わっています。この2年間、国内での活動にとどまることなく、米軍宇宙課程で学び、日米共同統合演習、日米間の情報共有について検討する机上演習、SSA多国間机上演習などに参加するとともに、安全保障分野における女性の役割などについて議論する国際シンポジウムに参加しました。



米宇宙課程の講義風景（筆者左列奥）

諸外国軍からは、宇宙領域での自衛隊の活躍を期待する声をよく耳にします。宇宙安全保障は官民の連携と多国間協力なしにはなしえません。今後も関係各所との相互理解を図りつつ、世界に冠たるSSA態勢の構築に邁進します。

沖縄県（宮古島市）



- 1 陸曹候補士(2006年)
- 2 衛生科
- 3 宮古警備隊
- 4 2等陸曹 小野 公嗣
- 5 長崎県



米軍慰問機構(USO)において表彰される筆者(右)

南西地域に貢献する 衛生科隊員として

私は、衛生救護陸曹(准看護師)として宮古警備隊において勤務しています。駐屯地医務室における薬局業務・医療事務・患者の受入などが私の任務です。

2020年1月末の沖縄県宮古島市における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための災害派遣において、新型コロナウイルス感染に伴うクラスターが発生した施設への支援を行い島民の皆様へ貢献できたこと、また、自衛隊の模範的な隊員として米軍慰問機構から表彰されたことをとても誇りに思います。任務を完了した後の皆様からの「ありがとう」の一言は、何ものにも代え難い私の宝物です。



災害派遣において患者を搬送する筆者(中央)

これからも国民の皆様の良き心の拠り所となるよう日々精進し任務に邁進していきます。

- 陸 ① 入隊区分
- ② 職域
- 海 ③ 部隊名
- ④ 階級・氏名
- 空 ⑤ 出身地

北海道 (恵庭市)



- ① 一般幹部候補生(一般/2019年)
- ② 機甲科
- ③ 第72戦車連隊 第5中隊
- ④ 3等陸尉 なかた みゆ 中田 実優
- ⑤ 愛知県



競技会開始前の指示を出す筆者

女性戦車小隊長として

私は、一般大学から幹部候補生学校を経て、現在、戦車小隊長として勤務しています。

当初は、男性ばかりの職場であるとともに、戦車を指揮することに不安でいっぱいでしたが、様々な訓練を通じて現在は、装甲に覆われた50tもの巨大な車体を自由自在に指揮し、自身の号令によって轟音とともに射撃が開始される様子に感激し、何度経験しても興奮を覚えています。



表彰式後の記念撮影 (写真中央が筆者)

小隊員と切磋琢磨しあった結果、昨年度は射撃の速さと正確さを競う方面隊戦車射撃競技会90式戦車の部で小隊優勝を獲得することができました。引き続き、あらゆる任務を達成できる強い小隊を目指して訓練に励みたいと思います。

神奈川県 (横須賀市)



- ① 一般幹部候補生(防大/2015年)
- ② 潜水艦
- ③ 横須賀所属潜水艦
- ④ 1等海尉 まつだ けんと 松田 研斗
- ⑤ 鹿児島県



訓練に従事中的筆者

海上自衛隊 潜水艦乗りの業務

私は、潜水艦のエンジンや電動機を担当する機関長として勤務しています。潜水艦は出港すれば日本の領海や国民を守るため昼夜を問わず警戒監視に従事します。警戒監視の任務中は気が抜けず緊張感のある日々が続きますが、任務を達成し母港である横須賀に帰り着いたときは何物にも代えがたい達成感が得られます。



リレーマラソンに参加中の筆者

潜水艦での生活は普通の生活と少し違い変わったところもありますが、人と人とのつながりが強く家族のような団結力があり毎日の勤務がとても楽しく充実しています。そんな潜水艦部隊で私たちと一緒に日本の海を守りませんか。

青森県 (つがる市)



- ① 一般幹部候補生(防大/2017年)
- ② 高射運用
- ③ 第6高射群第21高射隊
- ④ 2等空尉 うえだ こうき 上田 航己
- ⑤ 愛知県



筆者と高射器材

青函防空

私は侵攻してくる航空機や弾道ミサイルの撃破を担当する高射部隊で、ペトリオットミサイルシステムを運用しています。システムの運用に必要な操作員や整備員を指揮し、器材の機動、展開、防空戦闘訓練などを行っています。特に年に一度実施する米国での実弾射撃訓練に向けた取組は困難も多いですが、非常にやりがいを感じます。

私が勤務している車力分屯基地は隣接している米軍との交流も多く、語学を含めた日米共同を学べます。また、分屯基地は所属隊員や地元の方々との距離も近く、つがる市の伝統行事や消防観閲式などの地域イベントに参加し、貴重な体験をさせていただいています。



日米交流中の筆者

是非、津軽弁溢れるこの車力の地で一緒に勤務しませんか？

平和を仕事にする 自衛隊の仕事図鑑



陸上自衛隊の職種一覧

	<h3>普通科</h3> <p>地上戦闘の骨幹部隊として、機動力、火力、近接戦闘能力を有し、作戦戦闘に決着をつける重要な役割を果たします。</p>		<h3>特科(高射特科)</h3> <p>対空戦闘部隊として侵攻する航空機を撃墜するとともに、広範囲にわたり迅速かつ組織的な対空情報活動を行います。</p>		<h3>施設科</h3> <p>戦闘部隊を支援するため、各種施設器材をもって障害の構成・処理、陣地の構築、渡河などの作業を行うとともに、施設器材の整備などを行います。</p>
	<h3>機甲科</h3> <p>戦車部隊、機動戦闘車部隊、水陸両用車部隊及び偵察部隊があり、戦車などの正確な火力、優れた機動力及び装甲防護力により、敵を圧倒撃破するとともに迅速に機動します。</p>		<h3>情報科</h3> <p>情報に関する専門技術や知識をもって、情報資料の収集・処理及び地図・航空写真の配布を行い、各部隊を支援します。</p>		<h3>通信科</h3> <p>各種通信電子器材をもって部隊間の指揮連絡のための通信確保、電子戦の主要な部門を担当するとともに、写真・映像の撮影処理などを行います。</p>
	<h3>特科(野戦特科)</h3> <p>火力戦闘部隊として大量の火力を随時随所に集中して広域な地域を制圧します。</p>		<h3>航空科</h3> <p>各種ヘリコプターなどをもってヘリ火力戦闘、航空偵察、部隊の空中機動、物資の輸送、指揮連絡などを実施して、広く地上部隊を支援します。</p>		<h3>武器科</h3> <p>火器、車両、誘導武器、弾薬の補給・整備、不発弾の処理などを行います。</p>



海上自衛隊の職域一覧

	<h3>射撃</h3> <p>護衛艦などにおいて、砲、ミサイルを操作し、各種目標に対する攻撃を実施します。また弾火薬などの取扱を実施します。</p>		<h3>気象・海洋</h3> <p>気象・海洋観測、天気図類の作成、気象・海洋関係の情報の伝達に関する業務を行います。</p>		<h3>飛行</h3> <p>P-3C/P-1哨戒機、US-2救難飛行艇、SH-60J/K哨戒ヘリコプターなどの搭乗員として飛行任務を実施します。</p>
	<h3>通信</h3> <p>陸上基地、艦艇及び航空機などの通信、暗号の作成及び翻訳、通信機材・暗号器材及び関連機材の操作整備を業務としています。</p>		<h3>航海・船務</h3> <p>航海は、艦艇の艦橋において航海に関する業務を実施します。船務は、レーダー・電波探知機などを活用し、戦術活動を実施します。</p>		<h3>機関</h3> <p>エンジン（ガスタービン、ディーゼルなど）発動機などの運転、整備及び火災、浸水対処などを業務とします。</p>
	<h3>水雷</h3> <p>護衛艦、潜水艦で魚雷などの水中武器、ソナーなどの水中搜索機器を操作し、潜水艦の搜索、攻撃及び器材の整備を行います。</p>		<h3>給養</h3> <p>艦艇及び陸上部隊において、隊員に対する給食業務を実施します。</p>		<h3>航空機整備</h3> <p>航空機の機体、エンジン及び計器並びにこれらを維持するための器材などの整備、修理、補給などに関する業務を行います。</p>



航空自衛隊の職域一覧

	<h3>操縦</h3> <p>戦闘機、輸送機、偵察機及び政府専用機などを操縦し、防空、航空偵察、航空輸送及び航空救難などを行います。</p>		<h3>高射</h3> <p>侵攻してくる弾道ミサイルや航空機、巡航ミサイルを撃破するため、パトリオットミサイルシステムの操作及び器材の整備を行います。</p>		<h3>通信</h3> <p>通信器材を操作し、電報などの送受信を行うほか、器材の整備管理などを行います。</p>
	<h3>航空管制</h3> <p>航空自衛隊の飛行場（共用飛行場を含む）における航空交通管制業務を行います。</p>		<h3>電算機処理</h3> <p>電子計算機及び関連器材の操作やプログラムの作成、電子計算システムの管理を行います。</p>		<h3>武器弾薬</h3> <p>航空機に搭載される武器弾薬などの補給、管理、整備を行います。</p>
	<h3>警戒管制</h3> <p>日本の領空を常時監視し、接近又は侵入してくる航空機を早期に発見・識別し、必要に応じて戦闘機の誘導を行います。</p>		<h3>気象</h3> <p>航空機の離着陸及び飛行安全確保のため、気象観測・予報を行い、各種気象情報を全国の部隊に通報したり、天気図の作成を行います。</p>		<h3>航空機整備</h3> <p>航空機のエンジンや搭載する電子機器類、レーダーなどの整備及び航空機の定期整備を行います。</p>

自衛隊はいろいろな職種・自衛官と、防衛事務官・防衛技官などによって成り立っています。陸、海、空自衛隊にはきっと皆さんも興味を持つ様々な職種・職域があります。ここではその一部を紹介いたします。まずは「[自衛官適職診断](#)」から自分に合った職種・職域と見比べてみてください。

自衛隊の仕事がよくわかる！

自衛官募集
ホームページ



動画もチェック



防衛事務官・防衛技官等
募集はこちら

陸上自衛隊HP <https://www.mod.go.jp/g sdf/>

需品科

糧食・燃料・需品器材や被服の補給、整備及び回収、給水、入浴洗濯などを行います。

警務科

警護、道路の交通統制、隊員の規律違反の防止、犯罪捜査など部内秩序の維持に寄与します。

陸上自衛隊の職種詳細は
こちらからご覧ください



輸送科

大型車両をもって部隊、戦車、重火器、各種補給品を輸送するとともに、輸送の統制、ターミナル業務、道路交通規制などを行います。

会計科

隊員の給与の支払いや、部隊の必要とする物資の調達などの会計業務を行います。

音楽科

隊員の士気を高揚するための演奏や広報活動に関する演奏を行います。

化学科

各種化学器材をもって放射性物質などで汚染された地域を偵察し、汚染された人員・装備品などの除染を行います。

衛生科

患者の治療や医療施設への後送、部隊の健康管理、防疫及び衛生器材の補給・整備などを行います。

海上自衛隊HP <https://www.mod.go.jp/ msdf/>

経理・補給

給与・旅費などの計算、物品の調達、部隊の任務を遂行するために必要な装備品などを準備し、供給する業務を実施します。

情報

情報資料の収集、処理及び情報の配布、秘密保全などを業務とします。

海上自衛隊の職域詳細は
こちらからご覧ください



航空管制

飛行場及びその周辺を飛行する航空機に対する航空交通管制業務や艦艇において航空機に必要な情報を提供する業務を行います。

潜水

浅海域における簡単な水中作業や機雷・不発弾などの爆発物の捜索・処分、深海域における潜水艦などの乗員の救助に従事します。

音楽

音楽演奏を通じて隊員の士気を高揚します。また、広報活動に関する業務を行います。

施設

固有財産についての管理、運用、施設器材・施設車両を用いての建設、道路などの工事及び器材の設備を行います。

衛生

病院における医療及び医務室における健康管理や身体検査を実施するとともに、潜水に関する調査・研究を業務とします。

掃海機雷

掃海艦艇などで機雷探知機、掃海具などを操作し、機雷の処分及び機雷の調整、器材の保守整備を行います。

航空自衛隊HP <https://www.mod.go.jp/ asdf/>

施設

基地内施設の維持管理（土木・建築・電気など）及び航空機事故や建物火災など非常時の消火、人命救助などを行います。

警備

基地内巡察などを行い、基地の施設や物品の警戒などを行うほか、基地内・基地出入者の監視などを行います。

航空自衛隊の職域詳細は
こちらからご覧ください



衛生

隊員の健康診断及び各種身体検査のほか、医療、環境衛生、食品衛生検査を行います。

音楽

航空自衛隊には5つの音楽隊があり、国の行事や自衛隊の公式行事の時に演奏を行います。

会計

隊員の給与・旅費の支払いや、部隊などの任務遂行に必要な物品などの調達を行います。

補給

航空自衛隊で使用する物品の需給統制、在庫管理、取得出納、保管などを行います。

輸送

航空自衛隊で装備・使用されている車両で、人や貨物を輸送したり、航空機へ貨物を搭載したりする業務を行います。

宇宙

防衛省・自衛隊の多様な任務に重要な宇宙空間の安定的利用のため、宇宙領域専門部隊において、国内関係機関及び米軍と連携して、宇宙状況監視などの業務を行います。

自衛官とは

自衛官は特別職の国家公務員としての身分が保証されており、給与、保険など安定した処遇・福利厚生のもと、目標に向かって邁進することができます。また、一言で自衛官といっても、それぞれの役割に応じて階級が異なります。

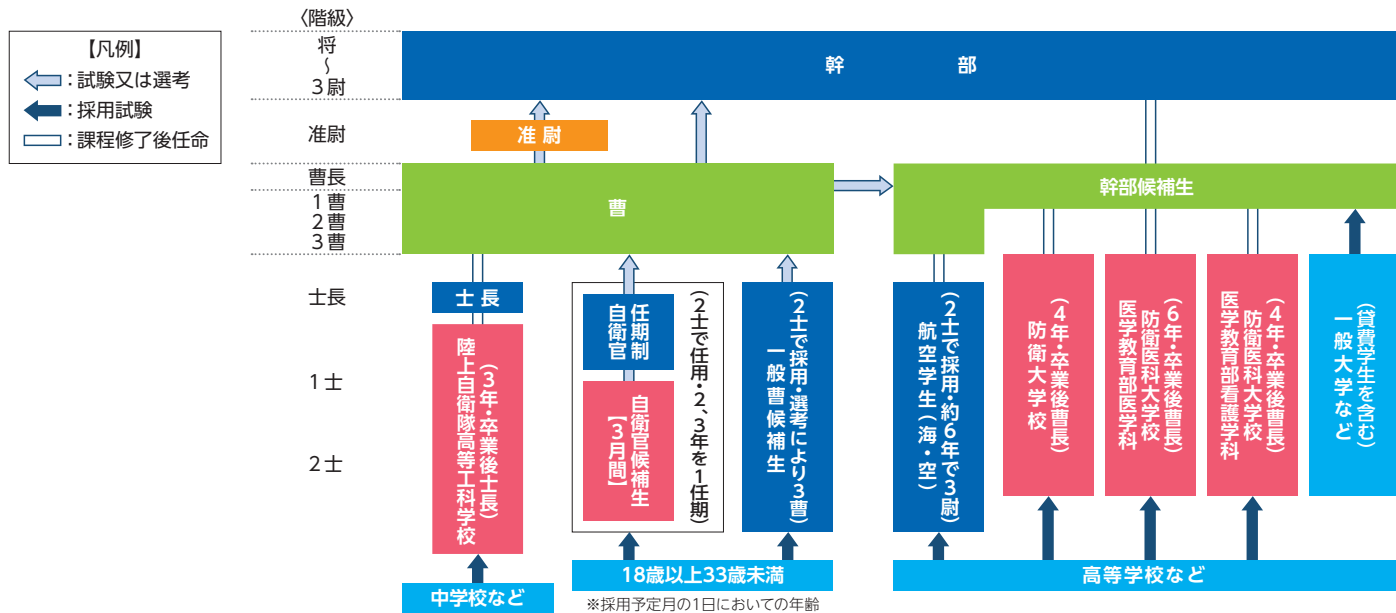
幹部自衛官 …… 組織のリーダーとなる自衛官

准曹士自衛官 …… 各部隊の中核となる自衛官

予備自衛官・即応予備自衛官 …… 招集命令に応じて自衛官となり、任務にあたる非常勤の特別職国家公務員

階級章

共通呼称	陸上自衛隊	海上自衛隊	航空自衛隊
幹部自衛官	☆☆☆☆ 陸上幕僚長	海上幕僚長	☆☆☆☆ 航空幕僚長
	☆☆☆ 陸 将	海 将	☆☆☆ 空 将
	☆☆ 陸将補	海将補	☆☆ 空将補
	1等陸佐	1等海佐	1等空佐
	2等陸佐	2等海佐	2等空佐
	3等陸佐	3等海佐	3等空佐
	1等陸尉	1等海尉	1等空尉
	2等陸尉	2等海尉	2等空尉
	3等陸尉	3等海尉	3等空尉
准曹士自衛官	准陸尉	准海尉	准空尉
	陸曹長	海曹長	空曹長
	1等陸曹	1等海曹	1等空曹
	2等陸曹	2等海曹	2等空曹
	3等陸曹	3等海曹	3等空曹
	陸士長	海士長	空士長
	1等陸士	1等海士	1等空士
	2等陸士	2等海士	2等空士



主要装備品の紹介 ■ 陸上自衛隊の装備品

12式地对艦誘導弾



〈諸元、性能〉
 【誘導弾】全長約5.0m 直径約35cm 重量700kg
 〈概説〉
 対上陸戦闘に際して、洋上の艦船などを撃破する国産の対艦誘導弾。

03式中距離地对空誘導弾(改善型)



〈諸元、性能〉
 【誘導弾】全長約4.9m 直径約28cm 重量454kg
 〈概説〉
 方面隊の作戦地域、重要地域などにおける部隊、施設を^{えん}掩護する国産の対空誘導弾。

V-22 (オスプレイ)



〈諸元、性能〉
 乗員3名(操縦士など) + 24名
 巡航速度約465km/h
 航続距離約2,600km
 全長約17.5m 全幅約25.8m 全高約6.7m
 〈概説〉
 飛行速度、航続距離及び飛行高度の性能に優れ、滑走路のない離島においても離着陸可能であることから、島嶼への侵攻対処のみならず、災害救援や離島の急患輸送にも活用。

ネットワーク電子戦システム



〈概説〉
 電波の収集・分析及び通信の無力化により、作戦を有利にする装置。

16式機動戦闘車



〈諸元、性能〉
 乗員4名 全長8.45m
 全幅2.98m 全高2.87m
 最高速度約100km/h
 105mm施線砲 12.7mm重機関銃
 74式車載7.62mm機関銃
 〈概説〉
 空輸性及び路上機動性に優れ、軽戦車などを撃破する装輪式の国産装甲戦闘車。

19式装輪自走155mmりゅう弾砲



〈諸元、性能〉
 全長約11.2m
 全幅約2.5m
 全高約3.4m
 最高速度約100km/h
 155mmりゅう弾砲
 写真は試作品
 〈概説〉
 各種事態において迅速かつ機動的な運用が可能な自走りゅう弾砲。

10式戦車



〈諸元、性能〉
 乗員3名 全長9.4m
 全幅3.2m 全高2.3m
 最高速度約70km/h
 120mm滑空砲 12.7mm重機関銃
 74式車載7.62mm機関銃
 〈概説〉
 対機甲戦闘・機動打撃などで使用する国産戦車。C4I(指揮・統制・通信・コンピューター・情報)機能が特徴。

水陸両用車(人員輸送型)



〈諸元、性能〉
 全長8.2m 全幅3.3m
 全高3.3m
 12.7mm重機関銃
 40mm自動てき弾銃
 〈概説〉
 海上機動性及び防護性に優れ、島嶼部へ海上からの部隊などを投入する装軌式の水陸両用車両。

中距離多目的誘導弾



〈諸元、性能〉
 【誘導弾】
 全長1.4m
 直径約14cm
 重量約26kg
 〈概説〉
 舟艇から装甲車、人員、構造物にまで対応でき、多目的性を有する誘導弾。

除染セット(除染装置I型)



〈諸元、性能〉
 乗員3名
 〈概説〉
 放射性物質、生物剤及び有毒化学剤に汚染された人員・装備品などの除染を行う除染装置。

■ 海上自衛隊の装備品

「いずも」型護衛艦



2017年3月に就役した護衛艦「かが」

〈諸元、性能〉

基準排水量19,500t 乗員約470名
長さ248m 幅38m 深さ23.5m 速力30kt
高性能20mm機関砲 SeaRAM 魚雷防御装置

〈概説〉

統合運用や災害派遣時の司令塔的役割など
多用途な任務に対応するヘリコプター搭載
型護衛艦。

P-1 哨戒機



〈諸元、性能〉

乗員11名 巡航速力450kt
全幅35.4m 全長38.0m 全高12.1m

〈概説〉

警戒監視、対潜水艦戦や捜索・救難などの
幅広い任務に従事する国産の主力固定翼哨
戒機。

「そりゅう」型潜水艦



〈諸元、性能〉

基準排水量2,950t
乗員約65名
長さ84m 幅9.1m
深さ10.3m 速力20kt

〈概説〉

非大気依存型推進(AIP: Air Independent
Propulsion) 機関を搭載した潜水艦。

「まや」型護衛艦



〈諸元、性能〉

基準排水量8,200t 乗員約300人
長さ170m 幅21.0m
深さ12.0m 速力30kt
高性能20mm機関砲
VLS装置 魚雷発射管
SSM装置 62口径5インチ砲
哨戒ヘリコプター

〈概説〉

最新鋭のイージス護衛艦。

「あさひ」型護衛艦



〈諸元、性能〉

基準排水量5,100t 乗員約220人
長さ151m 幅18.3m
深さ10.9m 速力30kt
高性能20mm機関砲
VLS装置 魚雷発射管
65口径5インチ砲 SSM装置一式
魚雷防御装置 哨戒ヘリコプター

〈概説〉

対潜戦に強い汎用護衛艦。

「あわじ」型掃海艦



〈諸元、性能〉

基準排水量690t 乗員約50人
長さ67m 幅11m
深さ5.2m 速力14kt
20ミリ遠隔管制機関砲
掃海装置一式

〈概説〉

高い機雷捜索能力を保有する掃
海艦。

「おすみ」型輸送艦



〈諸元、性能〉

基準排水量8,900t 乗員約135名
長さ178m 幅25.8m
深さ17.0m 速力22kt
高性能20mm機関砲
輸送用エアクッション艇

〈概説〉

被災者に対する医療、補給設備
などを設置しており、多面的な
活用が可能な輸送艦。

砕氷艦「しらせ」



〈諸元、性能〉

基準排水量12,650t
乗員約175名
長さ138m 幅28m
深さ15.9m 速力19kt
観測隊員約80名
大型ヘリコプター

〈概説〉

南極観測の支援を任務とし、4
代目となる砕氷艦。

「ましゅう」型補給艦



〈諸元、性能〉

基準排水量13,500t
乗員約145名
長さ221m 幅27.0m
深さ18.0m
速力24kt 洋上補給装置
補給品艦内移送装置

〈概説〉

補給能力が大幅に向上した補給
艦。

US-2 救難飛行艇



〈諸元、性能〉

乗員11名
最大速力315kt
全幅33.2m 全長33.3m
全高9.8m

〈概説〉

波高3mの洋上でも離着水可能
であり、洋上での救難に従事す
る救難飛行艇。

SH-60K 哨戒ヘリコプター



〈諸元、性能〉

乗員4名
最大速力139kt
全幅16.4m 全長19.8m
全高5.4m

〈概説〉

護衛艦に搭載し、護衛艦と共に
多様な任務に従事する主力哨戒
ヘリコプター。

■ 航空自衛隊の装備品

F-35A 戦闘機



〈諸元、性能〉

乗員1名 最大速力マッハ約1.6
全幅10.7m 全長15.6m 全高4.4m
25mm機関砲 空対空ミサイル

〈概説〉

高いステルス性能のほか、これまでの戦闘機から格段に進化したシステムを有する最新鋭の戦闘機。

C-2 輸送機



〈諸元、性能〉

乗員2～5名+110名 最大速力マッハ約0.82
全幅44.4m 全長43.9m 全高14.2m
最大航続距離約7,600km (20t搭載時)

〈概説〉

戦術輸送能力の強化、国際平和協力活動などへの積極的な取組のため開発された国産輸送機。

F-15 戦闘機



〈諸元、性能〉

乗員1名/2名 最大速力マッハ約2.5
全幅13.1m 全長19.4m
全高5.6m 20mm機関砲
空対空ミサイル

〈概説〉

優れた運動性能を誇る空自の主力戦闘機であり、国籍不明機への緊急発進など、空の守りを担う。

F-2 戦闘機



〈諸元、性能〉

乗員1名/2名 最大速力マッハ約2.0
全幅11.1m 全長15.5m
全高5.0m 20mm機関砲
空対空ミサイル
空対艦ミサイル

〈概説〉

日米で共同開発され、優れた技術が結集されている戦闘機。

C-130H 輸送機



〈諸元、性能〉

乗員6名+64～92名 最大速力約318kt
全幅40.4m 全長29.8m
全高11.7m 航続距離約4,000km
(5t搭載時)

〈概説〉

航続距離が長く、PKO活動などで活躍する輸送機。

UH-60J 救難ヘリコプター



〈諸元、性能〉

乗員5名 最大速力約144kt
航続距離約1,295km
全幅5.4m 全長15.7m
全高5.1m

〈概説〉

遭難者を救助する救難ヘリコプター。右前方下部に空中受油装置を装備。

KC-767 空中給油・輸送機



〈諸元、性能〉

乗員4～8名+200名 最大速力マッハ約0.84
航続距離約7,200km
(30t積載時)
全幅47.6m 全長48.5m
全高15.8m

〈概説〉

世界初の遠隔視認装置を採用した空中給油機。

E-767 早期警戒管制機



〈諸元、性能〉

乗員約20名 最大速力約450kt
航続距離約9,000km
全幅48.0m 全長49.0m
全高16.0m

〈概説〉

速度性能や航続性能に優れた早期警戒管制機。

J/FPS-5 警戒管制レーダー



〈概説〉

日本周辺空域を常時監視し、弾道ミサイルにも対処できるように開発された固定式レーダー。

パトリオットPAC-3 地对空誘導弾



〈概説〉

弾道ミサイル防衛の下層迎撃を担う地对空誘導弾であり、弾道ミサイル発射事象に際しては、適所に展開して対応する。

理想の未来を実現する多種多様なコース

コース	特徴	対象年齢
 <p>COURSE 01 陸上自衛隊 高等工科学校生徒</p> <p>QRコードで 動画もチェック!</p> 	<p>高機能化・システム化された装備品を運用する陸上自衛官となる者を養成するための学校です。国際社会においても自信をもって対応できる自衛官を育てます。</p>	<p>17歳未満の男子 中卒(見込)を含む</p>
 <p>COURSE 02 自衛官候補生</p> 	<p>自衛官となるために必要な基礎的教育訓練を経て、任用期間が定められた「任期制自衛官」に任官します。様々な訓練や職務を通じた技術の習得、任期満了後の再就職に向けた資格の取得など、希望に合った将来設計が描けます。</p>	<p>18歳以上 33歳未満 32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者</p>
 <p>COURSE 03 一般曹候補生</p> 	<p>部隊の基幹隊員である陸・海・空自衛官を養成する制度です。入隊後、教育課程や部隊勤務で知識や経験を積み、それぞれの職域のプロとして活躍します。自衛官の基礎知識はもちろん専門的な技能まで、じっくりと着実に身に付けることができます。</p>	<p>18歳以上 33歳未満 32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者</p>
 <p>COURSE 04 航空学生</p> 	<p>海自または空自のパイロットなどを養成します。団体生活を送りながら各種訓練を受け、戦闘機、哨戒機、輸送機、ヘリコプターのパイロットなどに最年少でなることができます。</p>	<p>18歳以上 21歳未満 海上自衛隊航空学生は18歳以上23歳未満</p>
 <p>COURSE 05 防衛大学校学生</p> 	<p>将来、各自衛隊の幹部自衛官となる者を4年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。広い視野、科学的な思考、豊かな人間性を持ち、想像力と活力に溢れる幹部自衛官となるため、知育以外に徳育と体育を重視しています。</p>	<p>18歳以上 21歳未満</p>
 <p>COURSE 06 防衛医科大学校 医学科学生</p> 	<p>将来、医師である幹部自衛官となる者を6年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。医師としての知識や技能のほかに、生命の尊厳への理解やあらゆる任務を遂行できる強靱な体力も養います。</p>	<p>18歳以上 21歳未満</p>
 <p>COURSE 07 防衛医科大学校 看護学科学生 (自衛官候補看護学生)</p> 	<p>将来、看護師・保健師である幹部自衛官となる者を4年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。看護専門職者としての優れた教養・知識・技能の実践を通じて、防衛省・自衛隊の国内外における活動に貢献できる人材を育成します。</p>	<p>18歳以上 21歳未満</p>
 <p>COURSE 08 一般幹部候補生</p> 	<p>防衛大学校卒業者ととともに陸・海・空自衛隊それぞれの幹部候補生学校において、自衛隊組織の骨幹である幹部自衛官として必要な知識と技能を学びながら、その資質を養います。</p>	<p>26歳未満 大学院卒は28歳未満</p>
 <p>COURSE 09 自衛隊貸費学生</p> 	<p>自衛隊の装備品の研究開発分野で活躍する人材を、大学理学部・工学部や大学院修士課程の在籍生から選考により採用し、学資金を貸与して修学を助成、卒業後は所定の手続きにより、一般幹部候補生として採用されます。</p>	<p>25歳未満 大学卒業時点で26歳未満 修士課程在籍者は27歳未満 (課程修了時点で28歳未満)</p>
 <p>COURSE 10 予備自衛官補</p> 	<p>社会人や学生といった自衛官未経験者であっても「予備自衛官補」として採用後、所定の教育訓練を経て「予備自衛官」に任命され、各種事態において自衛官として社会に貢献できます。「一般」と「技能」(語学、医療など)のコースがあります。</p>	<p>18歳以上 34歳未満 技能公募はこれに限らず</p>

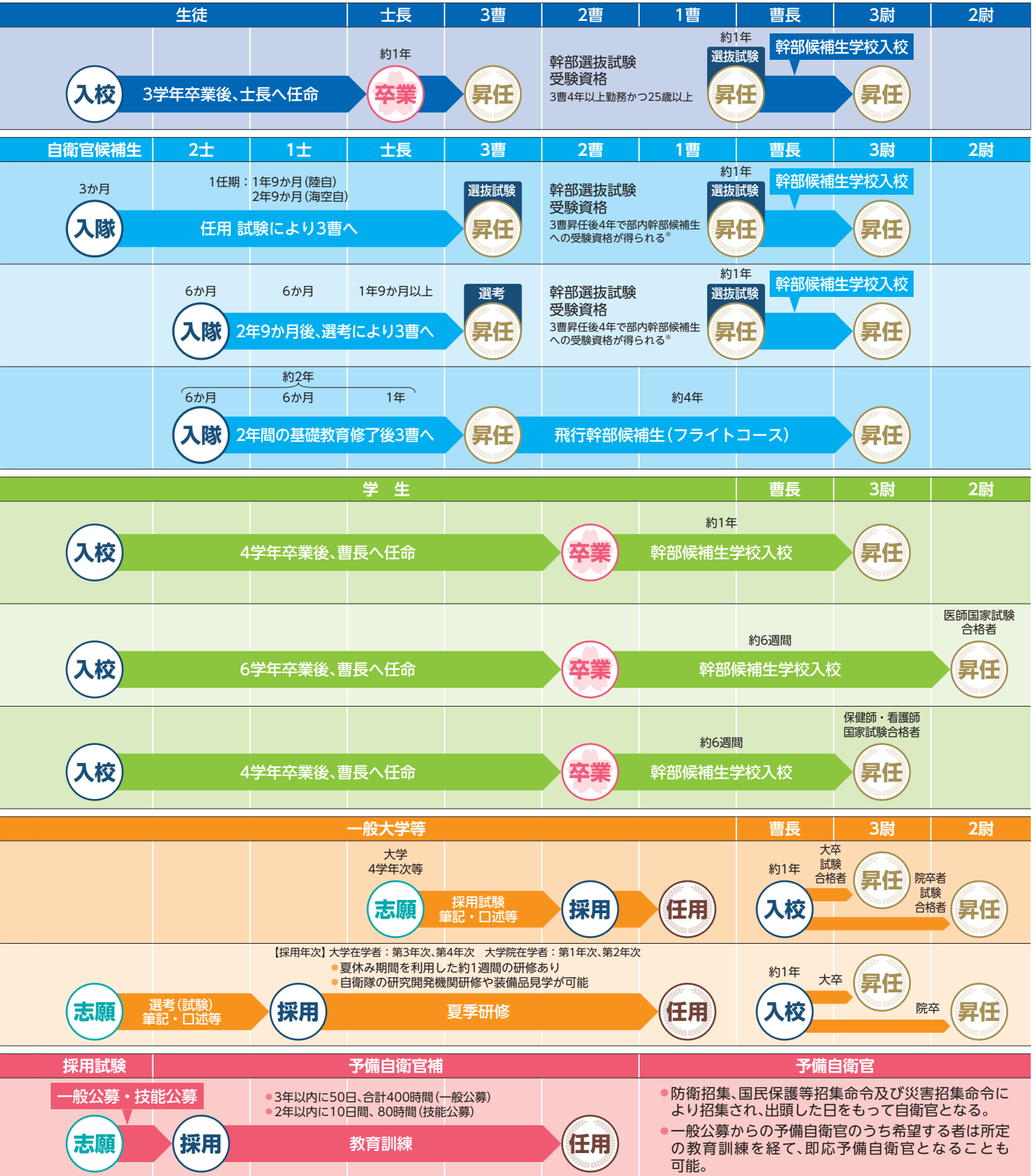
募集のHPもチェック!

自衛官になるといっても、その進路は多種多様。
 「なりたい自分になる」ために、自分の適性や希望にあうものを探してみましょう。
 また、防衛省・自衛隊では、多くの防衛事務官や防衛技官の方々も活躍しています。

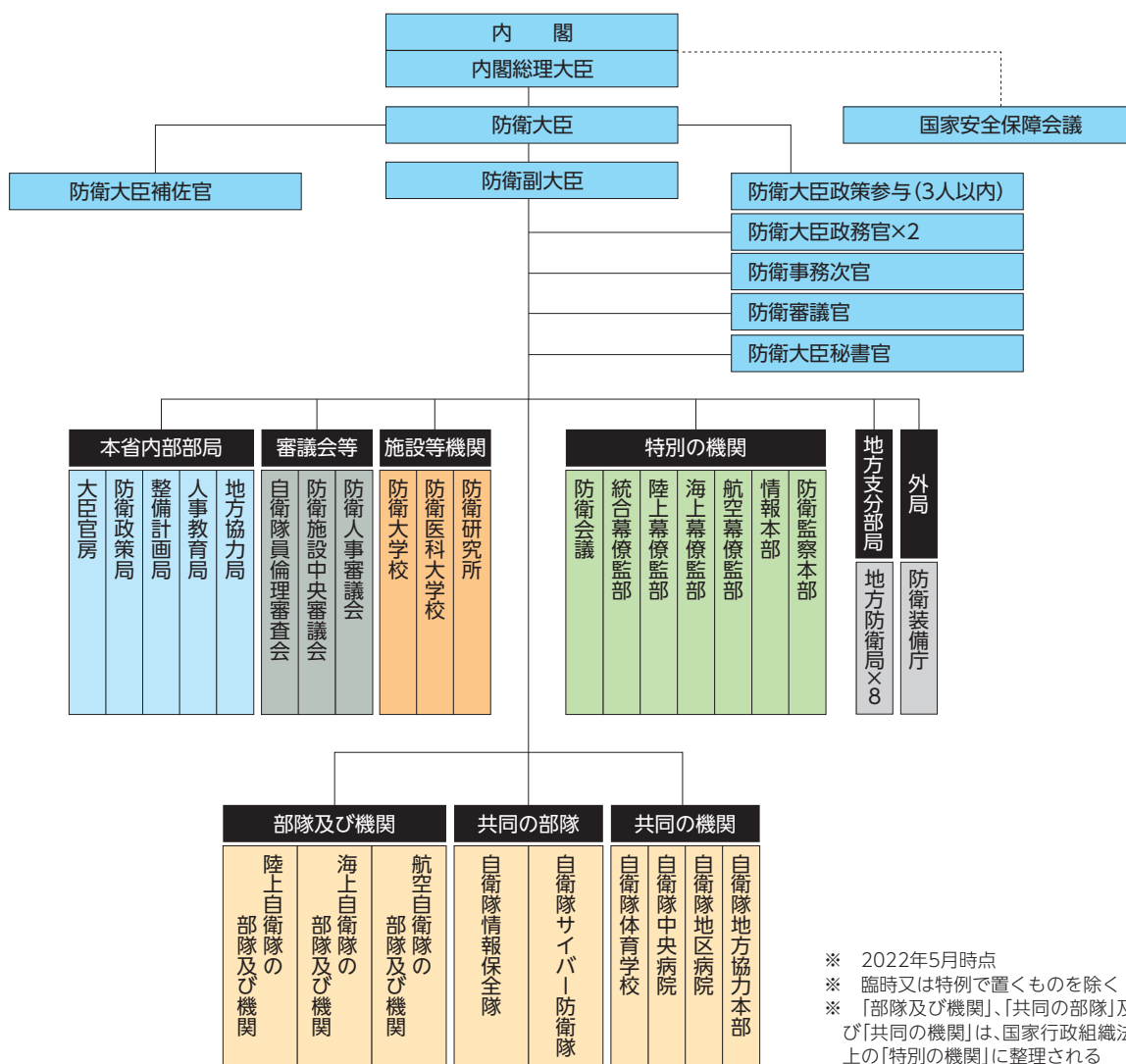
防衛事務官・防衛技官等
 採用区分についてはこちら



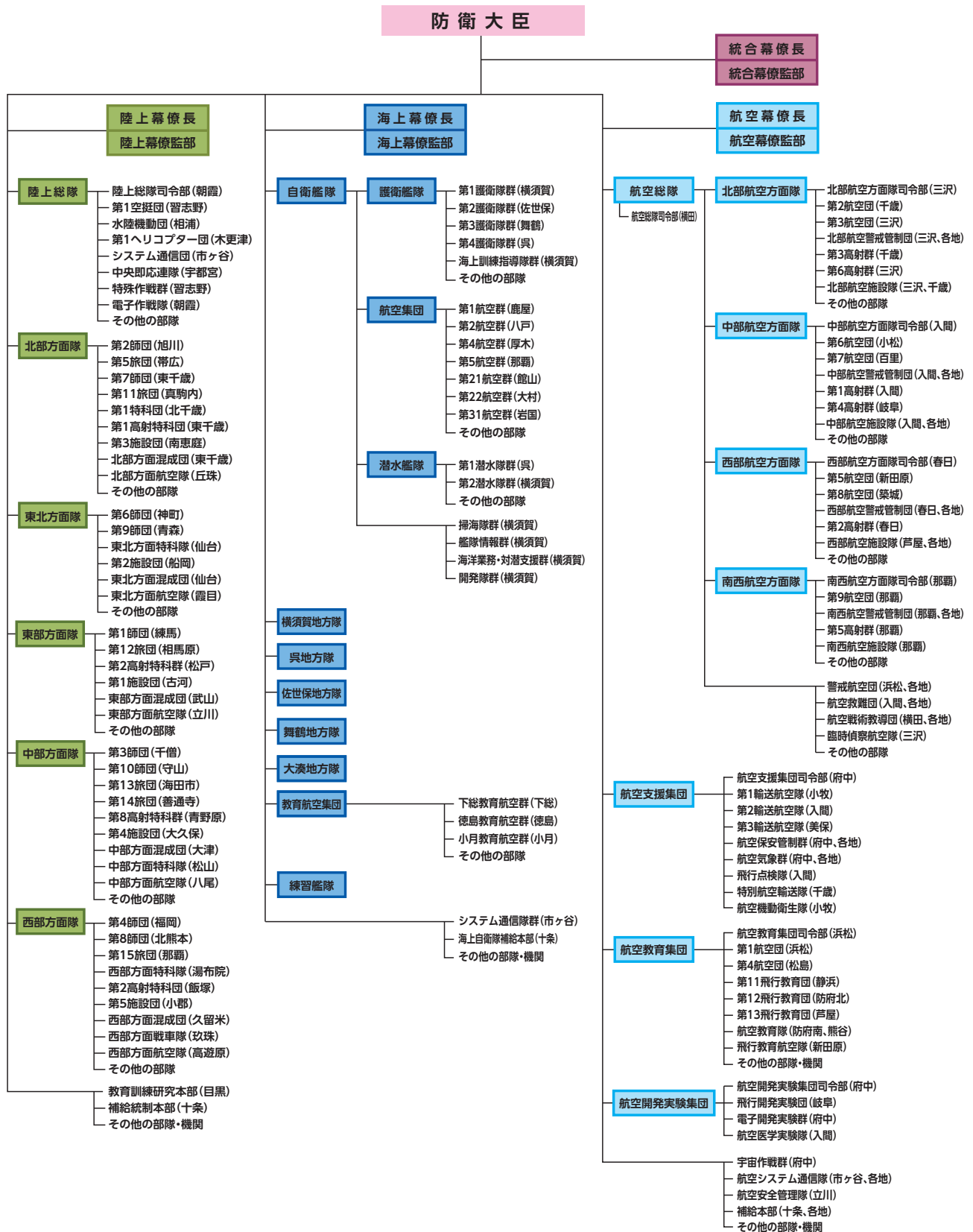
※大卒者については、定める要件を満たす場合、3曹昇任後1年で幹部候補生への受験資格が得られます。



防衛省・自衛隊の組織図



陸・海・空自衛隊の編成



主要部隊などの所在地 (イメージ) (令和3 (2021) 年度末現在)



主な広報施設のご案内



市ヶ谷台ツアー (※要予約)

見学概要

防衛省の心臓部とも言える市ヶ谷地区の見学ツアーです。市ヶ谷地区に所在する庁舎や極東国際軍事裁判の法廷となった大講堂などを移設・復元した市ヶ谷記念館や大本営地下壕跡などをご案内します。

見学時間 ①09:30~11:20 (午前) ②13:30~15:50 (午後)

開催日 平日のみ **料金** 午前(無料)、午後(700円 ※18歳未満は無料)

駐車場 なし(お車でのご来場はご遠慮ください。)

所在地 〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町5-1

ご予約・お問い合わせ 記念館係: 03 (3268) 3111 (内線: 21904)



陸上自衛隊広報センター りっくんランド

見学概要

災害派遣や国際平和協力活動など分かりやすく紹介。多数の装備品を館内・屋外に展示しています。操縦を疑似体験できるシミュレーター、90式戦車や操縦席に座って写真が撮れるなど、お子様から大人まで楽しめる、見て、触れて、体感できる施設です。

開館時間 10:00~17:00

休館日 月曜日、第4火曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始

料金 無料 **駐車場** あり(無料)

所在地・交通 〒178-8501 東京都練馬区大泉学園町

お問い合わせ 03 (3924) 4176



海上自衛隊呉史料館 てつのかじら館

見学概要

海上自衛隊の歴史や、呉市と海上自衛隊の歴史的な関わりについて紹介しています。魚雷や掃海艇などの装備品や、機雷を除去する掃海作業の様子も必見です。また、実物の潜水艦を屋外に展示し、ふれあいながら見学することができる貴重な史料館です。

開館時間 09:00~17:00 (最終入館: 16:30)

休館日 火曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始

料金 無料 **駐車場** あり(有料)

所在地 〒737-0029 広島県呉市宝町5番32号

お問い合わせ 0823 (21) 6111



航空自衛隊浜松広報館 エアパーク

見学概要

「見て体験して楽しむ」をコンセプトとし、歴代ブルーインパルスなど多数の航空機の実物が展示されています。また、パイロット訓練生と同じ飛行コースを体験できるシミュレーションなど、大空を飛びパイロット気分を心ゆくまで満喫することができます。

開館時間 09:00~16:00

休館日 月曜日(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜日、3月第2週の火曜日~木曜日、年末年始

料金 無料 **駐車場** あり(無料)

所在地 〒432-8551 静岡県浜松市西区西山町

お問い合わせ 053 (472) 1121



防衛大学校ツアー (※要予約)

見学概要

帽子投げで有名な記念講堂、本校の歴史が一目でわかる資料館、学生が生活する学生舎(外観)、防大グッズが購入できる学生会館などをご案内します。午後の見学では、「学生の行進」がご覧になれます。(都合により行わない場合もあります)

見学時間 ①09:20~11:20 (午前) ②12:10~14:20 (午後)

開催日 平日の月曜日(午後)、水曜日(午前・午後)、金曜日(午後)

料金 無料 **駐車場** 事前にお問合せください。

所在地 〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20

ご予約・お問い合わせ 広報ツアー係: 046 (841) 3810 (内線: 2019)





令和4年度自衛官等採用案内



種 目	採用人員	資 格	受付期間 (締切日必着)	試験 期 日	合格発表	入隊時期 (入校時期)	待遇・その他	
幹部候補生	一般	参考(令和3年度) 陸 約156名 海 約72名 空 約51名 (男女の区分なし) ※1	22歳以上26歳未満の者 (20歳以上22歳未満の者(うち女子約15名)、修士課程修了者等(見込含)は28歳未満の者) ※1	①3月1日～4月14日 ②3月1日～6月16日 (飛行要員除く。)	①1次:4月23日・24日 2次:5月27日～6月2日 3次(海・空飛行要員のみ) (海):6月23日～27日 (空):7月16日～8月4日 ②1次:6月25日 2次:8月1日～7日	①1次:5月20日 2次(海・空飛行要員のみ) (海):6月16日 (空):6月20日 最終: (海):7月8日 (空):7月15日 ②1次:7月22日 2次:8月1日～7日	令和5年3月中旬 ～4月上旬	入隊後約1年で 3等陸・海・空尉 (院考試験合格者は 2等陸・海・空尉)
	歯科 薬剤科	参考(令和3年度) 陸 約13名 海 約9名 空 約6名 ※1	専門の大学(見込含) 20歳以上30歳未満の者 (薬剤科は20歳以上28歳未満の者 ※2)		①1次:4月23日 2次:5月27日～6月2日 ②1次:6月25日 2次:8月1日～7日	①1次:5月20日 最終: 7月8日 (陸空):7月15日 ②1次:7月22日 最終:9月22日		歯科は入隊後約6週間で2等陸・海・空尉 薬剤科は入隊後約1年で2等陸・海・空尉
医科・歯科幹部	参考(令和3年度) 陸 約4名 海 約5名 空 約3名 ※1	医師・歯科医師の免許取得者	①2月1日～6月10日 ②8月1日～10月28日 ※3	①6月24日 ②11月18日	①7月29日 ②12月23日	①令和4年9月下旬 ～10月上旬 ②令和5年3月下旬 ～4月上旬	2等陸・海・空尉以上で採用(経験年数等)により異なります。	
技術海上幹部 技術航空幹部	参考(令和3年度) 海 約15名 ※1	大学以上の者で、応募資格に定められた学歴・専攻科目(見込含)後、2年以上の業務経験のある者	3月1日～5月20日	6月20日	7月29日	海自:令和4年9月下旬 空自:令和4年10月上旬	3等海・空尉以上で採用(経験年数等)により異なります。	
技術海空曹	参考(令和3年度) 海 約19名 空 約8名 ※1	20歳以上の者で国家免許資格取得者等		6月17日		海自:令和4年9月下旬 空自:令和4年11月下旬	3等海・空曹以上海・空曹長までで採用(免許資格、年齢等)により異なります。	
航空学生	参考(令和3年度) 海 約74名 (女子若干名) 空 約72名 (男女の区分なし) ※1	海:18歳以上23歳未満の者(高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含)) 空:18歳以上21歳未満の者(高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含)) ※1	7月1日～9月8日	1次:9月19日 2次:10月15日～20日 3次(海)11月18日～12月14日 (空)11月12日～12月15日	1次:10月7日 2次(海)11月9日 (空)11月4日 最終:令和5年1月17日	令和5年3月下旬 ～4月上旬	入隊後約6年で3等海・空尉	
一般曹候補生	参考(令和3年度) 陸 約4,000名 (うち女子約500名) 海 約1,800名 (うち女子約250名) 空 約850名 (男女の区分なし) ※1	18歳以上33歳未満の者(32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者) ※1	①3月1日～5月10日 ②7月1日～9月5日	①1次:5月20日～29日 2次:6月17日～7月3日 ②1次:9月15日～18日 2次:10月8日～23日 ※いずれか1日を指定されます。	①1次:6月10日 最終:7月22日 ②1次:10月3日 最終:11月15日	令和5年3月下旬 ～4月上旬	入隊後2年9か月経過以降選考により3等陸・海・空曹	
自衛官候補生	男子	参考(令和3年度) 約3,054名 約646名 約1,450名	18歳以上33歳未満の者(32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者) ※1	年間を通して行っております。	受付時又は各自衛隊地方協力本部のホームページにてお知らせします。 ※4	令和5年3月下旬 ～4月上旬	所要の教育を経て、3か月後に2等陸・海・空士に任用(陸上(技術系を除く)は1年9か月、陸上(技術系)・海上・航空は2年9か月を1任期として任用(以降2年を1任期))	
	女子	参考(令和3年度) 約750名 約110名 約150名 ※1			試験時にお知らせします。 ※4	※上記の他に設定する場合があります。		
防衛大学校学生	推薦	参考(令和3年度) 人文・社会科学専攻 約30名 (うち女子約10名) 理工学専攻 約120名 (うち女子約20名) ※1	18歳以上21歳未満の者(高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含)) 成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を修め、学校長が推薦できる者	9月5日～9日	9月24日・25日	10月28日		
	総合 選抜	参考(令和3年度) 人文・社会科学及び理工学専攻(うち女子約5名) ※1	18歳以上21歳未満の者(高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含))	7月1日～10月28日	1次:9月24日 2次:10月29日・30日	1次:10月14日 最終:11月24日	令和5年4月上旬	修学年限4年 卒業後約1年で3等陸・海・空尉
防衛医科大学校医学科学生	参考(令和3年度) 約85名 ※1	18歳以上21歳未満の者(高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含))	7月1日～10月12日	1次:10月22日 2次:12月14日～16日	1次:12月1日 最終:令和5年1月31日	令和5年4月上旬	修学年限6年 医師免許取得後、2等陸・海・空尉	
防衛医科大学校看護学科学学生 (自衛官候補看護学生)	参考(令和3年度) 約75名 ※1	18歳以上21歳未満の者(高卒者(見込含)又は高専3年次修了者(見込含))	7月1日～10月5日	1次:10月15日 2次:11月26日・27日	1次:11月11日 最終:令和5年2月3日	令和5年4月上旬	修学年限4年 看護師免許取得後卒業後約1年で3等陸・海・空尉	
陸上自衛隊 高等工科学学校 生徒	推薦	参考(令和3年度) 約90名 ※1	男子で中卒(見込含)17歳未満の成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を修め、学校長が推薦できる者	10月1日～12月2日	令和5年1月5日～7日 ※いずれか1日を指定されます。	令和5年1月13日		
	一般	参考(令和3年度) 約260名 ※1	男子で中卒(見込含)17歳未満の者	10月1日～令和5年1月6日	1次:令和5年1月14日・15日 2次:令和5年1月28日～29日 ※いずれか1日を指定されます。	1次:令和5年1月20日 最終:令和5年2月9日	令和5年4月上旬	修学年限3年 卒業後は陸士長卒業後約1年で3等陸曹
貸費学生	参考(令和3年度) 陸 約16名 海 約16名 空 約16名 ※1	大学の理学部、工学部 ※5の3・4年次又は大学院(専門職大学院を除く)修士課程在学中(正規の修業年限を終る年の4月1日現在で26歳未満)又は大学院修士課程在学中(28歳未満)	6月1日～11月11日	12月3日	令和5年3月3日	①貸費学生採用時期は4月上旬 ②幹部候補生採用(入隊)時期は大学又は大学院を卒業(修了)する年の4月上旬	貸費学生として採用された4月分から大学又は大学院の正規の修業年限を終る月まで毎月54,000円貸与されます。	
予備自衛官補	一般 陸 約1,550名	18歳以上34歳未満の者	①1月6日～4月8日 ②6月1日～9月16日 ※3	①4月11日～17日 ②9月25日～10月10日 ※いずれか1日を指定されます。	①5月31日 ②11月9日	教育訓練の開始時期: 令和4年7月以降	徴収は指定しない 教育訓練手当 :日額8,500円 所定の教育訓練修了後予備自衛官として任用	

(注) 1. ※1: 令和4年度の採用人員につきましては、決定次第、自衛官募集ホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。
2. ※2: ① 学校教育法に基づく大学において、正規の業の課程(6年制の課程に限る。)を修めて卒業した者(令和5年3月卒業見込の者を含む)。
② 外国の薬学専攻を卒業し、又は外国の薬剤師免許を受けた者で、厚生労働大臣が①に掲げる者と同等以上の学力及び技能を有すると認定した者。
③ 平成18年度から平成29年度までの間に学校教育法に基づく大学に入学し、4年制薬学課程を修めて卒業し、かつ学校教育法に基づく大学院において薬学の修士又は博士課程に在学中(見込含)した者であって、厚生労働大臣が、厚生労働省令で定めるところにより、①に掲げる者と同等以上の学力及び技能を有すると認定した者に限ります。

3. ※3: 第1回で採用予定数を採用した場合、第2回は実施しない場合があります。
4. ※4: 令和5年3月高等学校卒業予定者又は中等教育学校卒業予定者等のための採用試験は、令和4年9月16日以降に行います。
5. ※5: 学部については、理学部、工学部に類する学部も応募資格に該当する場合があります。詳しくは最寄りの自衛隊地方協力本部にお問い合わせください。

6. 資格欄中の「高卒」は中等教育学校卒業生を含みます。
7. 応募資格年齢の記載日は、科目ごと異なりますので、それぞれの採用要項又は自衛官募集ホームページ等で確認してください。
8. その他、詳細については、各採用(募集)要項又は自衛隊地方協力本部で確認してください。(事務官・技官の採用試験については、防衛省大臣官房秘書課へ)

9. 記載内容については変更する場合があります。変更事項については自衛官募集ホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

(令和4年4月現在)

< 自衛官募集ホームページ >

< 自衛官募集ツイッター >



防衛省・自衛隊 公式コンテンツのご案内



防衛省ホームページ ▶



防衛省公式アカウント ▶



◀防衛省公式アカウント



◀防衛省公式チャンネル



防衛省公式アカウント ▶



そのほかの防衛省・自衛隊公式SNSは
こちらからチェック! ▶



各自衛隊・機関などのホームページ



<https://www.mod.go.jp/js/>



<https://www.mod.go.jp/dih/>



陸上自衛隊

<https://www.mod.go.jp/gsd/>



IGO

防衛省 防衛監察本部
Inspector General's Office of legal compliance

<https://www.mod.go.jp/igo/>



海上自衛隊
Japan Maritime Self-Defense Force

<https://www.mod.go.jp/msdf/>



地方防衛局

<https://www.mod.go.jp/rdb/>



航空自衛隊
Japan Air Self-Defense Force

<https://www.mod.go.jp/asdf/>



防衛装備庁
Acquisition, Technology & Logistics Agency

<https://www.mod.go.jp/atla/>



<https://www.mod.go.jp/nda/>



自衛官募集

Japan Self-Defense Forces

<https://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/>



防衛医科大学校
National Defense Medical College

<https://www.mod.go.jp/ndmc/>



[https://www.mod.go.jp/j/publication/
events/index.html](https://www.mod.go.jp/j/publication/events/index.html)



NIDS 防衛研究所
National Institute for Defense Studies

[http://www.nids.mod.go.jp/?_ga=
2.95602332.188386897.1653871669-774730835.1653871669](http://www.nids.mod.go.jp/?_ga=2.95602332.188386897.1653871669-774730835.1653871669)

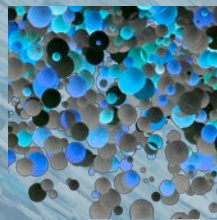
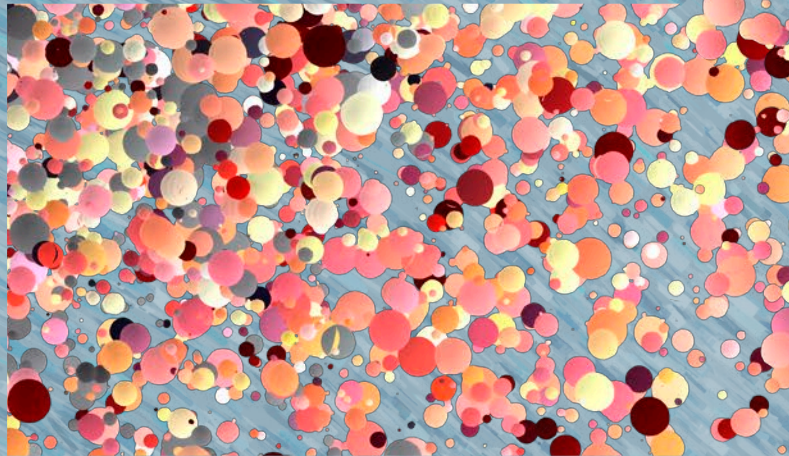
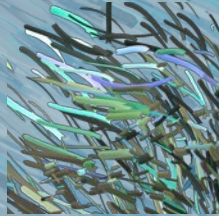
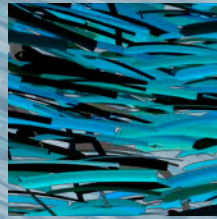
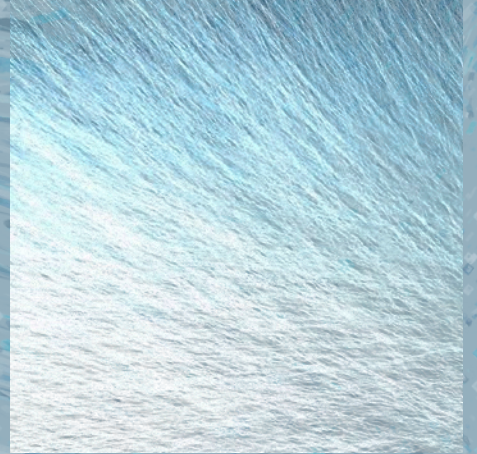
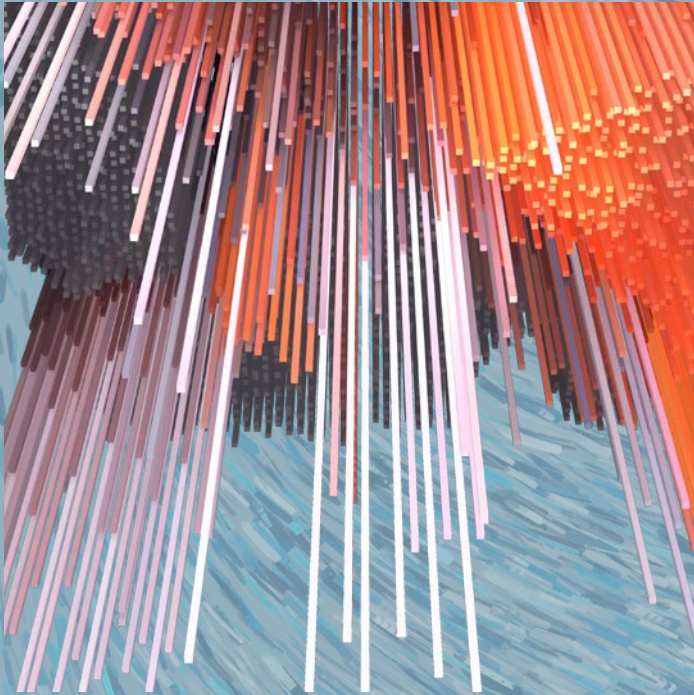
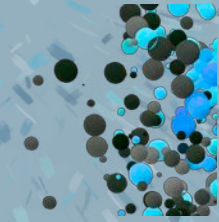


はじめての
防衛白書

[https://www.mod.go.jp/
j/kids/wp/index.html](https://www.mod.go.jp/j/kids/wp/index.html)



令和4年版 防衛白書を
小学校高学年以上の
みなさんにも
分かりやすく
説明しています。



防衛省・自衛隊
MINISTRY OF DEFENSE